

第20回

研究紀要

平成30年度～令和2年度



「育てたい力」の育成をめざすカリキュラム・マネジメント
～小・中・高の学びをつなぐ学習内容の充実をめざして～



香川大学教育学部附属特別支援学校

はじめに

香川大学教育学部附属特別支援学校
校長 青山 夕夏

香川大学教育学部附属特別支援学校では、第 20 回の節目を迎える研究大会をWEB開催とし、「研究授業」「全体・学部提案」「講演」もビデオ配信として開催することになりました。本校では文部科学省「特別支援教育に関する実践研究充実事業」の委託を受け「『育てたい力』の育成をめざすカリキュラム・マネジメント ～小・中・高の学びをつなぐ学習内容の充実をめざして～」をテーマとして平成30年度より研究に取り組んで参りました。

新学習指導要領は「全ての子供たちにこれからの変化の激しい時代を生き抜くために必要な資質・能力を確実に育成する観点」から改訂されました。特別支援学校では特に卒業後を見据えた日々の学習内容と質が問われます。今回の発表は、本校の特性を踏まえて小・中・高の学びの連続性をカリキュラム・マネジメントの対象とした一例を示すものです。授業実践では一人一人の障がいの状態等に応じた指導方法の充実や改善を図るという課題に基づいて、小・中・高等部ともに〔算数・数学〕の図形に関する内容で発表いたします。

研究の最終年度を迎えた本年度は、新学習指導要領スタート(小学部より順次全面実施)、GIGAスクール構想、コロナ禍と目まぐるしい変化の中で経過して参りました。学校が休校となる中、子供たちの生活や学習、研究活動も予定通りとはいかない面がありました。しかしその一方で、多くの皆様のご支援により、遠隔システムを利用したクラス活動や個々の実態に合わせた様々な教育活動の試行が開始したこと、また地域をはじめ、広域での教員間のネットワーク構築が可能となったことで新しい形の授業研究を進める契機が生まれています。それらについては、本校のHPでも一部を公開しております。日々刻々と新しい情報に接する中であって、本大会が多くのアイデア、そして失敗例も共有しながら、活発な情報交換の機会となることを願っております。

研究途上ではございますが、内容を紀要にまとめました。今後も、児童生徒の発達段階を見通し、これまでの取組も検証しながら残された課題に向かって努力をして参りたいと存じます。本校の取組の一端をご覧いただき、皆様のご指導、ご助言を賜りますようお願い申し上げます。



目次

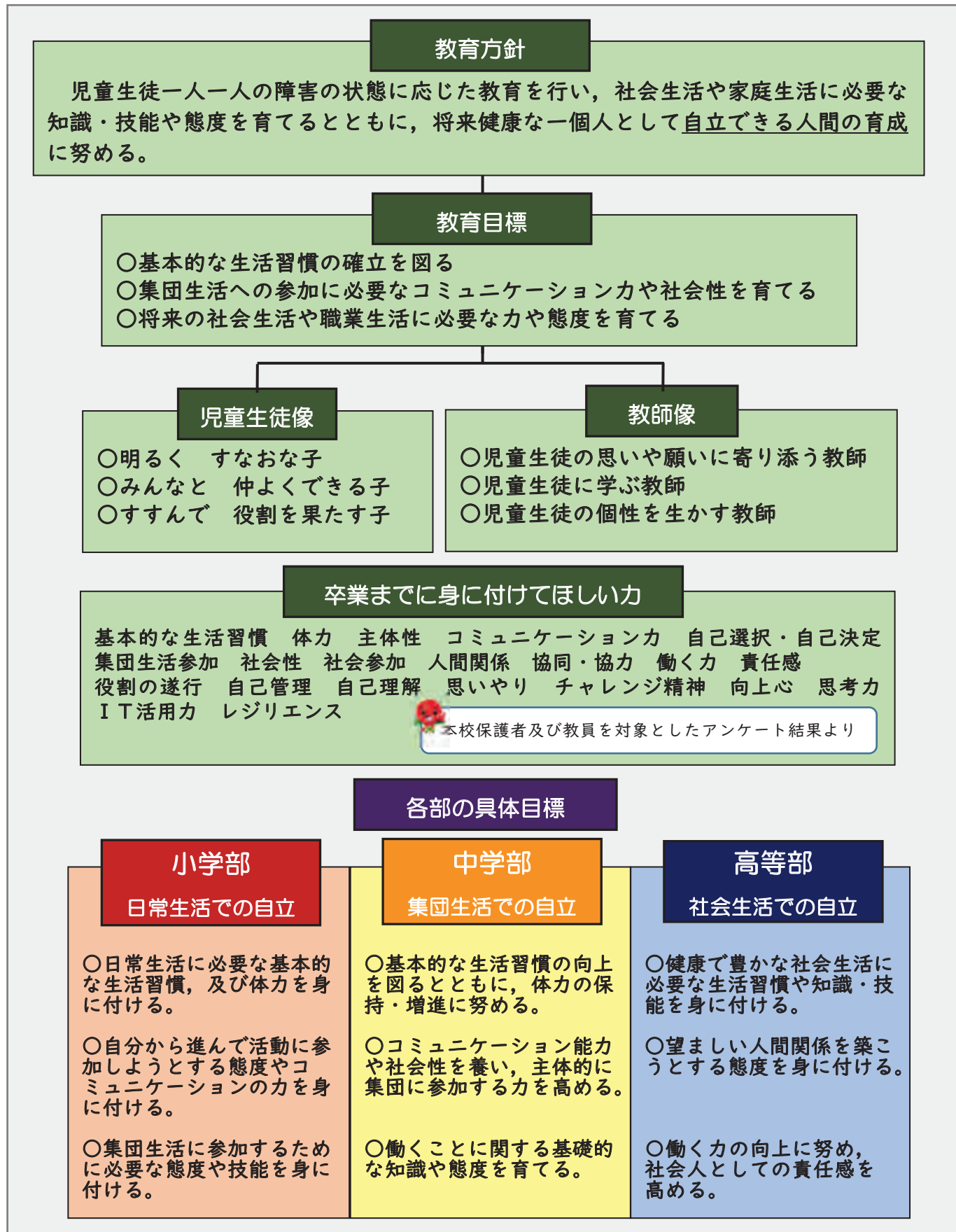


- 1 はじめに
- 3 香川大学教育学部附属特別支援学校の教育
- 5 本研究について
- 8 取組1 小・中・高の学びをつなぐ視点から見た「育てたい力」の整理
- 9 取組2 小・中・高の学びをつなぐ学習内容の検討
 - (1) 縦割グループでの職員研修
 - (2) 縦割授業検討会／討議会
 - (3) 「単元PDCAシート」を基にした授業づくりと単元計画
 - (4) 小・中・高の学びをつなぐ授業実践
- 15 取組3 学習指導要領を基にした学習内容表の作成と活用
- 17 小学部の取組 児童のアセスメントに基づく学習内容の検討
授業実践
- 21 中学部の取組 行事を通して生活につながる学習内容の検討
授業実践
- 25 高等部の取組 卒業後の生活により生きる学習内容の検討
授業実践
- 29 保健室の取組 卒業後の健康な生活につなげる
保健室からのカリキュラム・マネジメント
- 31 本研究のまとめ
- 33 おわりに



香川大学教育学部附属特別支援学校の教育

本研究において、アセスメント（Vineland-II社会適応尺度など）やアンケート調査結果を基に「育てたい力」を再整理し、教育方針や教育目標等の大幅な見直しを行った。



各部の教育課程

指導形態では、本校独自の名称を付けるなど特徴的な学習の取り組みを行っている。また、令和2年度より、指導形態に加えて教育内容(教育の内容と授業時数)についても併せて示している。

小学部



チャレンジタイム



ことば・かず

【小学部】 指導形態

	学年	1年・2年	3年～6年
各教科等を 合わせた 指導	遊びの指導	3	0
	日常生活の指導 (チャレンジタイム※)	13 (4)	13 (4)
	生活単元学習	3	6
各教科	国語	2	2
	算数	2	2
	音楽	1	1
	図工	1	1
	体育	3	3
特別の教科	道徳	教育活動全体を通じて指導	
領域	(外国語活動)		
	特別活動	1	1
	自立活動	教育活動全体を通じて指導	
計		29	29

教育内容

	学年	1年・2年	3年～6年
各教科	生活	11	11
	国語	3	3
	算数	2	2
	音楽	2	2
	図工	1.5	2
特別の教科	体育	3.5	4
	道徳	1	1
	(外国語活動)		
領域	特別活動	1	1
	自立活動	4	3
	計	29	29

※チャレンジタイム：個々の課題（手伝い・学習・運動・余暇等）に主体的に取り組む姿勢を育てる

中学部



パワーアップタイム



生活単元学習

【中学部】 指導形態

	学年	1～3年
各教科等を 合わせた 指導	日常生活の指導	3
	生活単元学習	5.5
	作業学習	6
	パワーアップタイム※	1
各教科	国語	2
	社会	各教科等を合わせた指導の中で指導
	数学	2
	理科	各教科等を合わせた指導の中で指導
	音楽	2
	美術	2
	保健体育	3
	職業・家庭	1
	(外国語)	
	特別の教科	道徳
領域	特別活動	0.5
	自立活動	教育活動全体を通じて指導
	総合的な学習の時間	1
計		29

教育内容

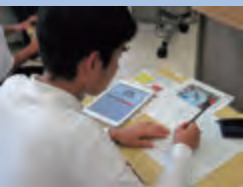
	学年	1～3年
各教科	国語	3
	社会	1
	数学	3
	理科	1
	音楽	3
	美術	3
	保健体育	4
	職業・家庭	5
	(外国語)	
	特別の教科	道徳
領域	特別活動	1
	自立活動	3
	総合的な学習の時間	1
計		29

※パワーアップタイム：生徒の思いや願いを核とし、集団の中でのコミュニケーションや社会性について学習する

高等部



ライフスキル



職業国語



暮らし

【高等部】 指導形態

	学年	1～3年
各教科等を 合わせた 指導	ライフスキル※	3
	生活単元学習	5
	作業学習	8
各教科	職業国語※	1
	社会	各教科等を合わせた指導の中で指導
	職業数学※	1
	理科	各教科等を合わせた指導の中で指導
	音楽	2
	美術	
	保健体育	3
	職業	1
	暮らし※	2
	(外国語)	
(情報)		
領域	道徳	教育活動全体を通じて指導
	特別活動	2
	自立活動	教育活動全体を通じて指導
総合的な学習の時間	2	
計		30

教育内容

	学年	1～3年A	1～3年B
各教科	国語	2	2
	社会	2	2
	数学	2.5	2.5
	理科	1	1
	音楽	3	1
	美術	1	3
	保健体育	4	4
	職業	6	6
	家庭	2	2
	(外国語)		
(情報)			
領域	道徳	1	1
	特別活動	2	2
	自立活動	1.5	1.5
総合的な学習の時間	2	2	
計		30	30

※ライフスキル：個別の課題を継続的に取り組んでいくことにより、「将来の自己実現」をめざす

※職業国語：職業生活において必要な伝える力、情報を読み取る力等を養うことを目的とする

※職業数学：職業技能として役立つ数量計算の仕方等を実際の職業生活で活用することを目的とする

※暮らし：将来のライフスタイルを見据えて、実際の生活に必要な内容についての知識・技能を習得する



本研究について

研究主題 「育てたい力」の育成をめざすカリキュラム・マネジメント ～小・中・高の学びをつなぐ学習内容の充実をめざして～

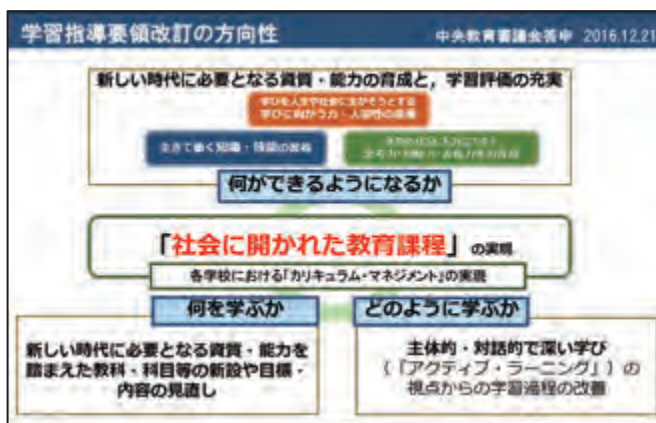
新しい特別支援学校学習指導要領では、障害のある人のライフステージ全体を豊かなものとするために、学校教育段階から将来を見据えた教育活動の充実を図ることが示された。児童生徒に「育てたい力（自立して生きる基盤となる力）」を育むために、発達段階に応じた学習内容を検討するとともに、小・中・高の学びに系統性をもたせ、それらの学びを卒業後の豊かな生活へとつなげるためのカリキュラム・マネジメントについての取組を提案する。

◆主題設定の経緯

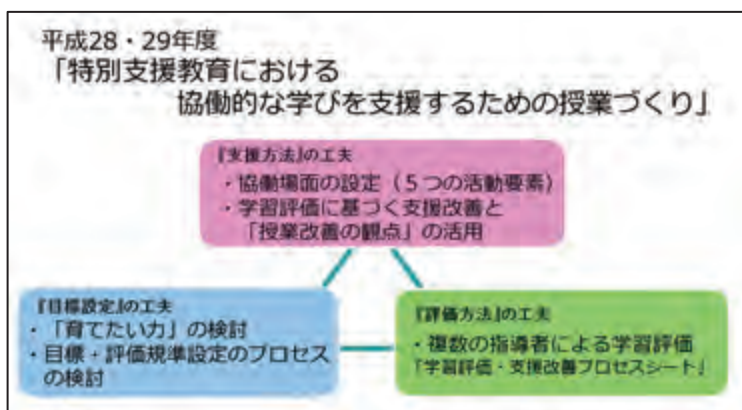
学習指導要領の改訂

新学習指導要領では、「社会に開かれた教育課程」の実現に向けて、子どもが「何ができるようになるか」を明確にしたうえで、そのために各教科等で「何を学ぶか」、そしてそれを「どのように学ぶか」という方向性で改訂が図られた。この方向性は、特別支援学校学習指導要領でも同様に重視されている。

また、特別支援学校学習指導要領における教育内容等の主な改善事項の中で、学校教育段階から将来を見据えた教育活動の充実を図ることが示された。各学部や各段階、幼稚園や小・中学校、高等学校とのつながりに留意して、学びの連続性を重視した対応を行うこと、卒業後の視点を大切にされたカリキュラム・マネジメントを計画的・組織的に行い、自立と社会参加に向けた教育の充実につなげることなどが規定され、障害のある人のライフステージ全体を豊かなものとすることをめざしている。



前回研究の成果と課題



本校では、平成28・29年度に研究主題を「特別支援教育における協働的な学びを支援するための授業づくり」として、『目標設定の工夫』『支援方法の工夫』『評価方法の工夫』の三つの視点で授業づくりについての研究に取り組んできた。

『目標設定の工夫』という点では、各学部で「育てたい力」について話し合い、目標や評価規準の設定に反映させることができたが、学部内での検討にとどまっておらず、系統性が十分に検討されていないという課題が挙げられた。

『支援方法の工夫』では、長年の授業づくりの研究成果である「授業改善の観点」を活用することができたが、授業実践の成果が各実践にとどまりやすく、学習内容を他の学年やグループに反映させていくことが課題として挙げられた。『評価方法の工夫』では、学部内で「育てたい力」や「関連する個別の指導計画の目標」を授業での評価規準の設定に反映させて学習評価につなげることができた。しかし、個別の指導計画や年間指導計画を見直すという点では十分ではなかった。

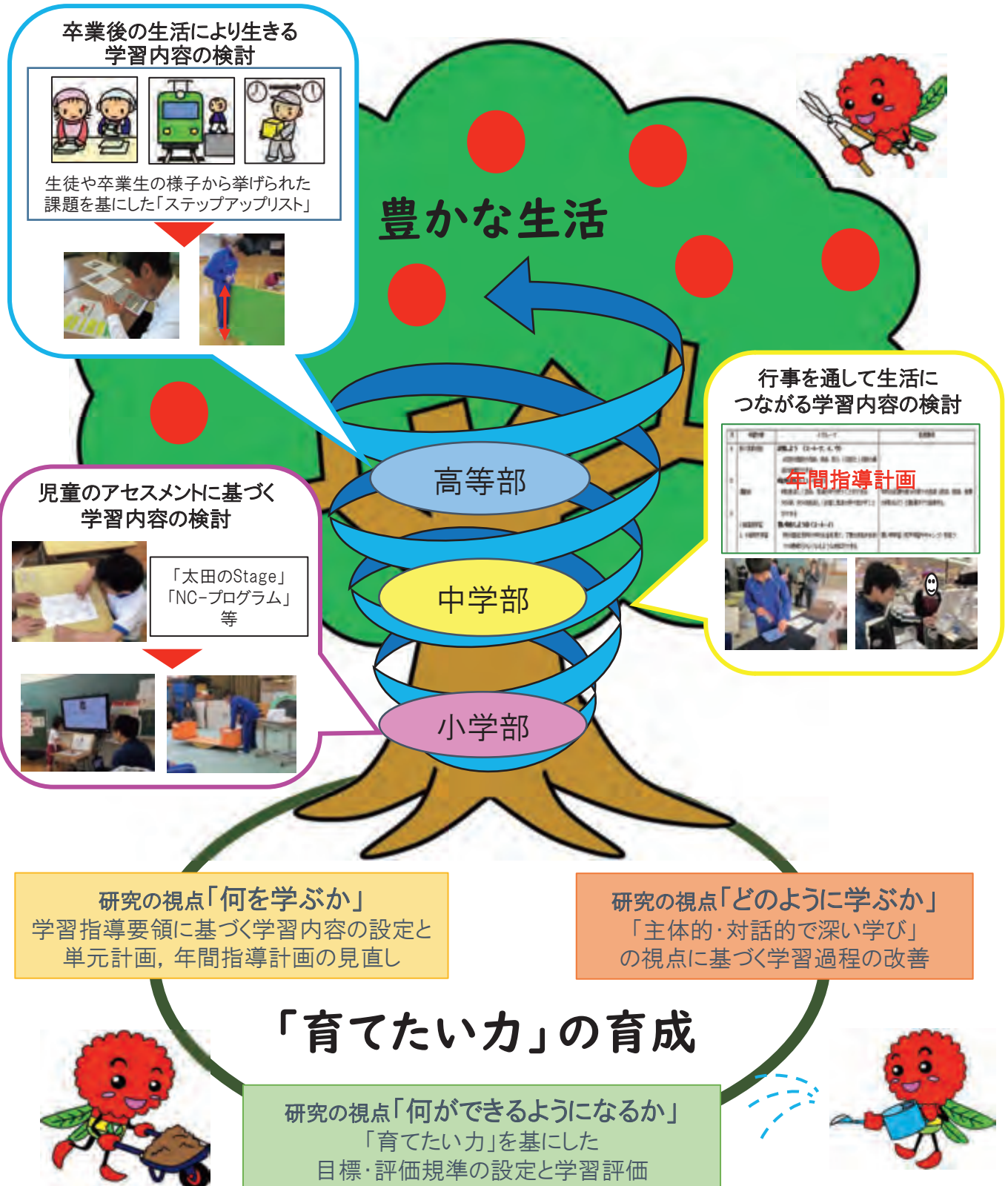
◆今回研究の全体像

今回の研究では、学習指導要領改訂の方向性でもある「何ができるようになるか」「何を学ぶか」「どのように学ぶか」の三つの視点で、授業実践を中心としたカリキュラム・マネジメントに取り組み、「育てたい力」の育成につなげたいと考えた。

学校全体で三つの視点で研究に取り組むことを基礎として、各学部の児童生徒がそれぞれの発達段階に応じた学習に取り組めるように学部研究を進めた。それぞれの取組が途切れず、小学部から高等部までの12年間の学びをつなぎ、それぞれの段階での生活に生かせる力を積み上げていき、将来の生活が豊かになることをめざした。



本校のシンボルツリー
やまもの木



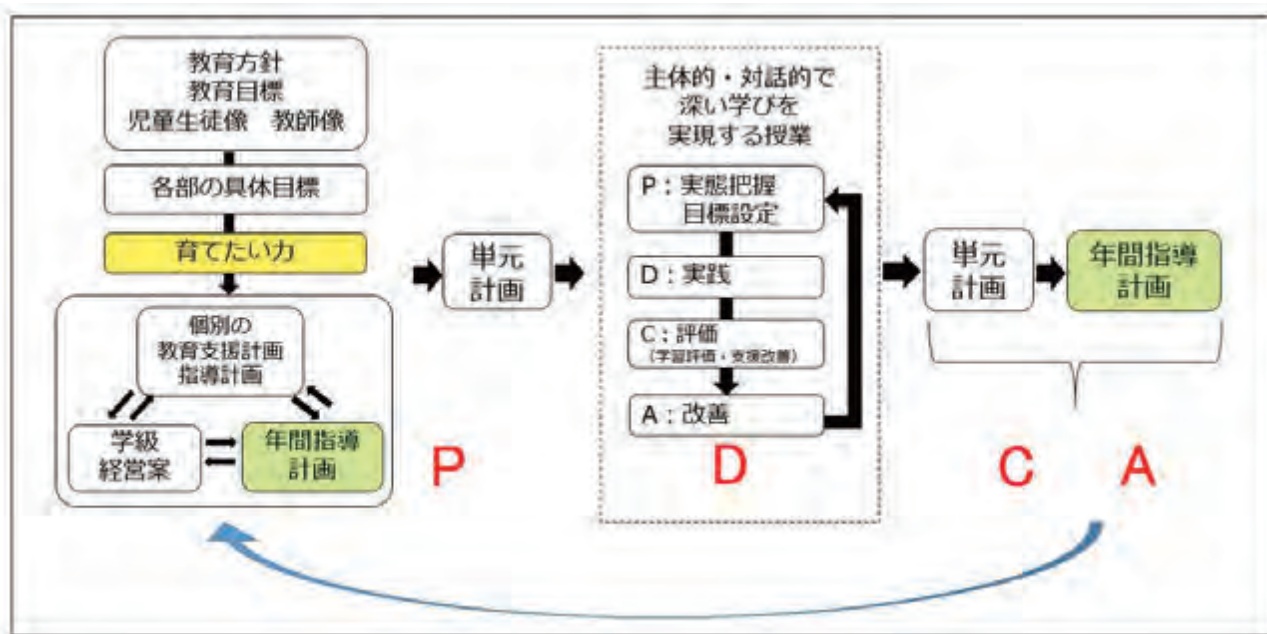
◆研究計画

目的 卒業後の生活につながる系統的な学びを実現するためのカリキュラム・マネジメントサイクルを構築し、「育てたい力」の育成につなげる。

仮説 以下の2点が、卒業後の生活に向けて「育てたい力」を系統的に育てることにつながるのではないかと。

- ①「育てたい力」を系統的に捉え直し、授業実践や教育課程に生かせるようにすること
- ②児童・生徒の系統的な学びを実現するためのマネジメントサイクルの在り方を検討し、実践すること

方法 授業実践を基に、「学習指導要領」や「育てたい力」、「小・中・高の系統性」を踏まえた年間指導計画の見直しを行い、教育課程改善のPDCAサイクルの確立をめざす。



取組1 小・中・高の学びをつなぐ視点から見た「育てたい力」の整理

取組2 小・中・高の学びをつなぐ学習内容の検討
(1) 縦割グループでの職員研修
(2) 縦割授業検討会／討議会
(3) 「単元PDCAシート」を基にした授業づくりと単元計画
(4) 小・中・高の学びをつなぐ授業実践

取組3 学習指導要領を基にした学習内容表の作成と活用

取組Ⅰ

小・中・高の学びをつなぐ視点から見た「育てたい力」の整理

<前回研究で検討した本校の児童・生徒に「育てたい力」>

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
小学部	各教科等の知識・技能	自分の思いや意見を表現する力	いろいろな活動に意欲的に取り組む力
		他者の思いや意見を聞く力	活動により良く取り組もうとする力
		自分の役割を意識し、他者と協力して活動する力	集団の中で自分のできることを発揮する力
中学部	各教科等の知識・技能	自分の考えや意志をもち、それを相手に伝える力	社会的な役割を果たそうとする力
		相手の話を聞き、応対する力	相手を意識して活動に取り組もうとする力
		集団で改善を考える力	自分や他者のよさを認め、共に活動しようとする力
高等部	各教科等の知識・技能	自分の思いや考えを伝える力	自分を伸ばそうとする力
		他者の思いや考えを聞く力	自分の責任を果たそうとする力
		集団の中で考えを修正したり深めたりする力	状況を理解し、共に取り組もうとする力



それぞれの力の系統性や意味合いについて話し合い、共通理解した。



前回研究で検討した「育てたい力」について、学びをつなぐ視点から整理し直した。その際、各部の具体目標や保護者・教員を対象にした「卒業までに身に付けてほしい力」についてのアンケート結果、アセスメントによる実態把握を基に検討した。

学びをつなぐ視点から見た「育てたい力」の捉え

- ◆小学部から段階的、系統的に積み上げていく力
- ◆現在の生活に生かせる力
- ◆将来の生活を豊かにする力



<小・中・高の学びをつなぐ視点から見た「育てたい力」>

	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
小学部	各教科等の知識・技能	自分の思いや考えを表現する力	いろいろな活動に意欲的に取り組む力
		他者の思いや考えを聞く力	活動により良く取り組もうとする力
		自分の役割を意識し、他者と協力して活動する力	集団の中で自分のできることを発揮する力
中学部	各教科等の知識・技能	自分の思いや考えを表現し、相手に伝える力	目標を意識して意欲的に取り組む力
		他者の思いや考えを聞き、応対する力	自分から役割を果たそうとする力
		集団で改善を考える力	自分の得意を生かしながら共に取り組もうとする力
高等部	各教科等の知識・技能	自分の思いや考えを表現し、分かりやすく伝える力	目標を意識して自分を伸ばそうとする力
		他者の思いや考えを聞き、適切に応対する力	自分の責任を果たそうとする力
		集団の中で考えを修正したり深めたりする力	集団の中で状況を理解して取り組もうとする力

各部の具体目標

小学部



日常生活での自立

中学部



集団生活での自立

高等部



社会生活での自立

「卒業までに身に付けてほしい力」についてのアンケート

平成30年度より毎年実施
本校の全保護者・全教員対象

「育てたい力」に関わる卒業までに身に付けてほしい力

「コミュニケーション力」
「自己選択や自己決定」
「集団生活参加」「社会性」
「社会参加」「人間関係」
「協同・協力」 など

アセスメントによる実態把握

◆S-M社会生活能力検査

(小・中学部で毎年実施)

「身辺自立」「作業」は比較的高いが、「集団参加」「コミュニケーション」は比較的低い傾向がある。

◆Vineland-II社会適応尺度

(全学部で毎年実施)

「日常生活スキル」と「社会性」に比較して「コミュニケーション」は低い傾向にある。

取組2

小・中・高の学びをつなぐ学習内容の検討

(1) 縦割グループでの職員研修

取組1で「育てたい力」を整理する過程で、系統性をもって育てていきたい教科として、国語科と算数・数学科を取り上げることとした。

【グループの構成】

所属学部、経験等を考慮しながら、全教員を国語、算数・数学の2グループに分けた。授業を担当している教科グループに所属するようにし、年度内は固定とした。

【内容】

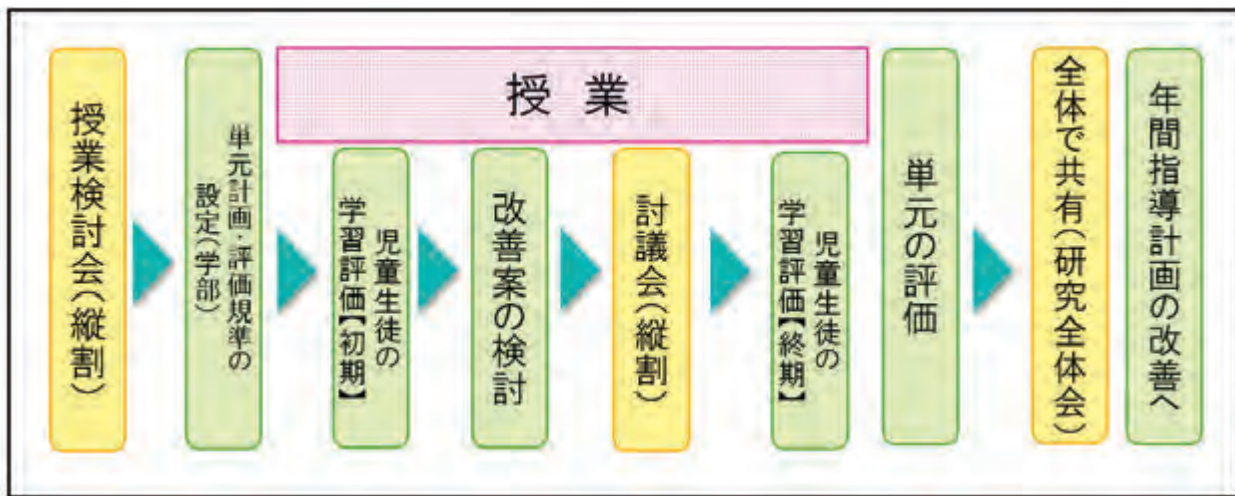
平成31年3月～令和元年8月の期間に2回、各学部の年間指導計画の内容やつながりを見直すグループワークを行った。付箋紙に各学部の年間指導計画の内容を記入し配列していくことで、内容やつながりを検討し共有した。

縦割でのグループワークを行うことで、他学部の取組を知り、学びのつながりを意識して学習内容を見直す視点をもつことができた。話し合った内容を基に、年間指導計画を改善したり、教科で系統的に「育てたい力」を身に付けるための具体的な学習内容として、授業実践を計画したりすることにつながった。



<年間指導計画を見直すグループワーク>

(2) 縦割授業検討会/討議会



<授業づくりと単元計画・評価の流れ>

◆授業検討会

【グループの構成】

所属学部や経験等を考慮しながら、全教員を各学部の授業ごとに3グループに分けた。一単元のメンバーは固定とし、単元計画から授業改善、単元評価まで同じメンバーで議論できるようにした。グループの構成は、研究授業ごとに再構成し、いろいろな学部の授業づくりに関われるようにした。

【内容】

授業検討会は、一単元につき1～2回(単元前と単元初期に)実施した。対象学部の授業について、他学部の教員からの意見を中心に、取り上げる内容の基礎となる力や取組、発展的な力や取組について議論するようにした。縦割グループで議論した内容を各学部で整理し、単元計画の修正や活動の設定、授業改善に生かせるようにした。



<縦割授業検討会の様子>

中学部 国語科 縦割授業検討会

「様子を表す言葉を集めて話そう」

「人間関係の広がり」をめざして相手に詳しく伝える表現力を身に付けよう

話したい気持ちはあるが、表現の仕方が分からない生徒が多い。



相手に伝わるように詳しく伝えるための表現方法を身に付けてほしい。

小学部教員



小学部では子どもたち自身から「話したくなる設定」を大切にしているよ。

高等部教員



過去にさかのぼって話をするのは高等部段階でも難しい生徒が多いよ。

中学部教員



一つの言葉でいろいろな様子を伝えられる「オノマトペ」を取り上げてみたら？

発達段階のつながりを踏まえた意見を出し合うことで、子どもたちにどうなってほしいか、そのためにどんな学習に取り組むか、あらためて考えることにつながった。

◆授業討議会

【グループの構成】

授業検討会と同じメンバーで構成した。

【内容】

授業討議会は、研究授業日の放課後に2部構成で実施した。

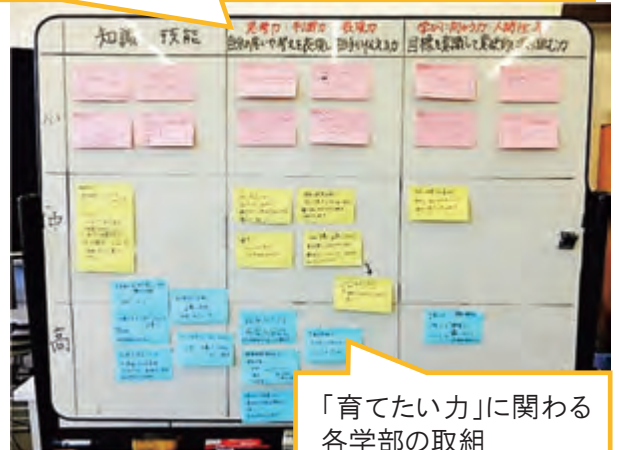
<前半>

「個の実態と目標の設定」「授業の展開」「支援の工夫や教材」についてなど、対象授業についての討議

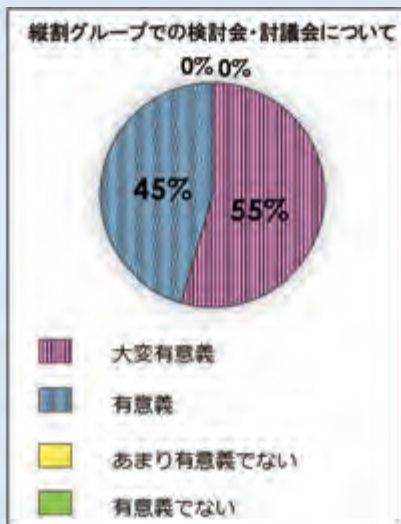
<後半>

対象授業で取り上げた学習内容や「育てたい力」に関わる各学部の取組についての意見交換

資質・能力の3観点で整理した単元で「育てたい力」



縦割グループでの取組に関する教員の意識



令和元年12月、全教員対象に縦割グループでの検討会・討議会についてのアンケート調査を行った。どの教員も、縦割検討会や討議会有意義なものであると感じていた。また、縦割グループで議論する中で、他学部の児童生徒の様子や学習内容などについて知ることができて良かったという意見が多数挙がった。

より良い取組にしよう!アンケートから得られた改善策

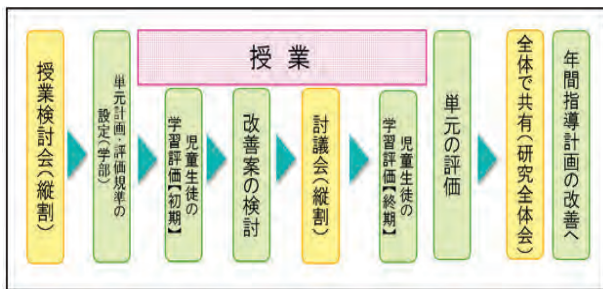
- ・検討会は単元前と単元初期の2回実施できるとより良い。
- ・他学部の教員に意見を聞きたい内容をあらかじめ出しておくことで、議論内容が具体的になる。
- ・研究授業以外でも授業参観の機会を設け、各学部の取組の共通理解を図る。

など



変更可能な点から改善し、より良い取組をめざした。

(3) 「単元PDCAシート」を基にした 授業づくりと単元計画



＜授業づくりと単元計画・評価の流れ＞

三つの研究の視点「何ができるようになるか」「どのように学ぶか」「何を学ぶか」に沿って単元の計画から評価までを進められるように、「単元PDCAシート」を作成し活用している。

研究の視点「何を学ぶか」

学習内容表 (学習指導要領)

単元	内容	ねらい
【国語科】 ・字音を認識しよう (自分や友達の名前)	①A 人や物の名前、平仮名 ②E 転写・なぞり書き	・新しいグループの友達の名前を知り、自分を区別したり、相手(友達)に感謝や興味をもつことができる。 ・身近な物をもつて文字に興味をもつたり、書いたりしようとするができる。
【算数科】 ・大の理解 ・長さの理解	1.0 大きい・小さい 2.0 長さの比較	・二つの具体物の大きさの違いに気付く。相対的な大きさ(「大きい」「小さい」)の感覚を養う。

ことば・かず Bグループ (3組) 年間指導計画

指導目標

- 生活に必要な言葉や数の理解力と活用力を育てる。
- 少人数によるグループ学習を通して、人の関わりの中で活発なコミュニケーションの力を育む。
- 集団・個別学習ともに主体的に取り組む。課題の終了まで集中して学習しようとする態度を培う。

指導方針

- アセスメント、IICプログラム、日常観察、本人・保護者の希望アンケート)により、実態やニーズを把握し、個に応じた教材・教具を設定する。
- 言語の理解・表出を確し、読速を促すためにICT機器の活用を積極的に行う。
- 学習内容への理解が深まるように、繰り返し学習を取り組める環境整備を工夫する。
- 児童が主体的に授業に参加できるように、役割や見通し表の発表、協同的な学習機会を設定する。
- 個別観察については、ワークシステムを取り入れ、自主的に課題に取り組めるようにするとともに、生徒課題と自立課題の配置を工夫することにより、個別学習指導を推進する。

年間を通して、次の学習(読書・計算など)については個別学習で実施し、一人一人の定着を図る。

単元	内容	ねらい
【国語科】 ・字音を認識しよう (自分や友達の名前)	①A 人や物の名前、平仮名 ②E 転写・なぞり書き	・新しいグループの友達の名前を知り、自分を区別したり、相手(友達)に感謝や興味をもつことができる。 ・身近な物をもつて文字に興味をもつたり、書いたりしようとすることができる。
【算数科】 ・大の理解 ・長さの理解	1.0 大きい・小さい 2.0 長さの比較	・二つの具体物の大きさの違いに気付く。相対的な大きさ(「大きい」「小さい」)の感覚を養う。

＜学習内容表と対応した年間指導計画＞

単元計画

学習指導要領、年間指導計画での位置付けを確認したうえで学習指導計画を立てる。



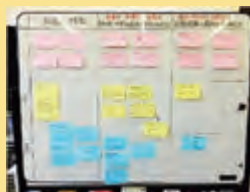
単元評価

縦割討議会での評価



学部での評価

縦割討議会での意見や学部での児童生徒の学習評価を基に、単元についての評価を行う。単元についての改善点を年間指導計画の見直しに生かす。



単元 PDCA シート

題材名「距離つ分の重さかな?～選べる重物を見つけてみよう」

研究の視点 何ができるようになるか

研究の視点	知識・技能	思考力・判断力
小学部における育てたい力	各教科等の知識・技能 算数・国語	自分の思いや考えを表現する力 他者の思いや考えを尊重する力 自分の役割を認識して活動する力
関連する個別の指導計画の目標	6男 ・二つの具体物でどちらが重いか予想し、天びんを使って比べることができる。	二つ ・二つの具体物でどちらが重いか予想し、天びんを使って比べることができる。
題材の目標 (各教科の中心目標)	具体物の重さを予想し、天びんを使って比べることができる。	
「算数」を目標とする実践の観点で分析	知識・技能 ・身の回りにある具体物の重さに注目し、重さの違いが分かる。 ・重さを比べる技能を身に付けることができる。 「国語」(「読む」) ・「読む」(「読む」) 国語の言葉の意味が分かる。 ・具体物の重さが距離つ分が分かる。	思考力 ・一方を重く、一方を軽く感じる。 ・「重い」「軽い」を区別することができる。 ・「重い」「軽い」を区別することができる。 ・「重い」「軽い」を区別することができる。
題材の指導標準 (教科の目標)	6男 ・「重い」「軽い」「(重さ)が同じ」の言葉を使って選り、距離つ分が分かることができる。(重・軽・距離) 重さの違いに興味をもつ、それだけで選り、(主体的に学習に取り組む態度)	・「重い」「軽い」「(重さ)が同じ」の言葉から距離つ分が分かることができる。
個別の評価標準 (個別の目標)	6男 ・「重い」「軽い」「(重さ)が同じ」の言葉から距離つ分が分かることができる。	・「重い」「軽い」「(重さ)が同じ」の言葉から距離つ分が分かることができる。

◎:一人でできる ○:手慣れを参考にして △:補助が必要

研究の視点 どのように学ぶか (主体的な学び)

学習活動	活動のねらい
① やってみよう ② 天びんで距離つ分が分かる	・五つの具体物それぞれが箱の中に、大きな天びんを用意し、それ、もう一方には距離つ分が分かるようにする。 「重い」「軽い」の表現は分る」という状態については分る。また、児童それぞれに、適切な予想をする。箱という基準を用いて、重さの全員が基準を基に重さの比較
＜振り返り＞ 一つずつ箱を入れていく児童	

研究の視点 何を学ぶか

学習指導要領での位置づけ	算数科
第2段階(測定)	二つの量の大小を比較する
第3段階(測定)	身の回りのものの重さを比較する
ことば・かず Bグループ【算数科】	比べよう、長さ、量の
学習指導計画(全11時間)	第1時 比べてみよう・選んでみよう 第2時 比べてみよう～二つの具体物で比べよう 第3時 距離つ分の重さかな?～選べる重物
討議会での意見	・重さを扱うことは難しいので、特意的に長さや広さより重さ(高職員より)、視察を基に思いつくことができる。 ・感覚は簡単に身に付かないのを感じた。教科だけでなく体育や音楽でもできる。 ・感覚について、長さや重さの感覚にしていることが多いが、手切。
単元についての評価	指導内容 生活で必要となる重さを扱うために、選んでみよう 実施時期 長夏についての学習が終わってから、本単元の方が良い
単元についての改善点	・目的意識をもって学習できるように、考える要素が多くなり、もっとシンプルな授業の流れ。 ・重さの感覚を養い、知識を身に付ける。重さを比べる活動や同じ、日常生活とも関連付けながら、うな機会を設定していくこと

研究の視点「何ができるようになるか」

目標・評価規準の設定

育てたい力

個別の指導計画

授業の中心となる課題

目標・評価規準

「育成を目指す資質・能力の三つの柱」の観点での課題分析



授業外の場面の児童生徒の様子を共有するためのエピソードボード

学習評価

学習評価【単元初期】

学習評価【単元終期】

授業での評価

「育てたい力」に関わる個のエピソード

教科横断的な視点での評価

育てたい力	評価規準	単元初期	研究授業後	単元終了時
箱をつかんで予想したり、結果から分かったことを友達や指導者に伝えたりすることができる。	箱をつかんで予想したり、結果から分かったことを友達や指導者に伝えたりすることができる。	<p>箱をつかんで予想したり、結果から分かったことを友達や指導者に伝えたりすることができる。</p> <p>△：任意単位を使って予想するという経験が少なかった。</p> <p>△：語彙を半歩かきに発表はできていたが、箱をつかんで予想はできていなかった。</p>	<p>箱をつかんで予想したり、結果から分かったことを友達や指導者に伝えたりすることができる。</p> <p>○：実際の天秤を使って量る前に箱をつかんで予想して、その前後を一度に量せるようにした。</p>	<p>箱をつかんで予想したり、結果から分かったことを友達や指導者に伝えたりすることができる。</p> <p>自分の体重が「箱をつかんで」を聞いてびっくりしていた。</p>

研究の視点「どのように学ぶか」

「主体的、対話的で深い学び」の観点での授業改善

主体的な学び

学ぶことに興味関心を持ち、自己のキャリア形成の方向性と関連付けながら、見通しをもって粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って次につなげる学び



対話的な学び

子ども同士の協働、教職員や地域の人との対話、先哲の考え方を手掛かりに考えることを通じ、自己の考えを広げ深めることができる学び



深い学び

習得・活用・探求という学びの過程の中で、各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせながら、知識を相互に関連付けてより深く理解したり、情報を精査して考えを形成したり、問題を見いだして解決策を考えたり、思いや考えを基に創造したりすることに向かう学び



(4) 小・中・高の学びをつなぐ授業実践

◆国語科

縦割グループの研修で話し合い、国語科で系統的に育てたい力について検討した。



子どもが生活の中で活用できる言葉が大事。発達段階に応じた言葉を教える必要がある。
各学部の教育目標「〇〇生活での自立」に関わる言葉じゃないかな。



中・高では「起立」という言葉を使っているけど、小学部低学年では「立ちましょ」と伝えている。
同じ意味の言葉でも、発達段階にふさわしい表現があるね。

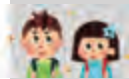
小学部段階での「聞く・話す」の領域は、コミュニケーションの基礎を学ぶ段階。言葉を発したら相手から反応があることが分かって、やり取りの楽しさを知ってほしいな。



周囲の人との関わりの中で、自分が話したことが相手に伝わる、人の話の内容が分かる経験を増やしてほしい。

生活の中で活用できる語彙力を身に付けてほしい。

小学部



日常生活での自立

「自分や友達の名前」
「好きな物の名前」など、
個の生活に関わる身近な
内容にじっくり取り組もう。

ことば・かず Bグループ 「平仮名を見て、聞いて、読んで～だれの名前?～」

【目標】
平仮名で書かれた自分や友達の名前を正しく判別することができる。



児童の実態に応じた教材で、名前を選んだり文字を選んで構成したりできるように学習を設定した。身に付けた力を生活で活用できるように、名前を読み取ってプリントや教材などを配る活動も設定した。

中学部

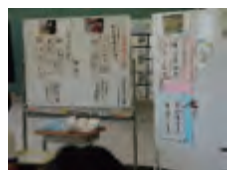


集団生活での自立

「人間関係の広がり」を
めざして、相手に詳しく
伝える表現力を身に付
けてほしい。

国語科 Bグループ 「様子を表す言葉を集めて話そう」

【目標】
様子を表す言葉を適切に使って出来事を詳しく話すことができる。



様子を表す言葉(オノマトペ)の使い方を理解できるように、生徒の身近な生活場面を設定し活用例を学習した。実際に活用できるように、友達に伝えるロールプレイングの活動も取り入れた。

高等部



社会生活での自立

社会や職場で使われる
言葉、指導者が日常的
に使用している言葉の
意味や使い方を改めて
確認する必要がある。

職業国語科 Bグループ 「自分たちの新聞を作って発表しよう～俺たちニュースな男だぜ～」

【目標】
取材や新聞から読み取った情報を記事にして発表したり、友達の発表を聞いて要点を聞き取ったりすることができる。



「意識しよう」など、生徒は本当に分かっているかという言葉を取り上げて語彙力アップをめざした。学んだ言葉を活用できる言葉にするため、新聞記事に取り上げ、繰り返し学習できるようにした。

◆算数・数学科



平成30年度 中学部数学科

「ぴったりはかるう～200mLの計量カップを使って～」の実践評価より

数の合成・分解をしながら、用意された計量カップを使って、指定された量を正確に量ることができた。



量に応じたサイズの計器を選ぶなど、効率よく量る方法などに気付けるような「量感」を育てる学習が必要だろう。



量についての発達段階に応じた学習内容を検討しよう。

小学部

ことば・かず Aグループ

「箱幾つ分の重さかな？～運べる荷物を見付けよう～」

【目標】具体物の重さを予想し、天びんを使って比べることができる。



重さの感覚を養うために、具体物を持って体感した感覚で重さを予想する活動を設定した。任意単位についても理解できるように、天びんを使って箱幾つ分かを数値化して比べられるようにした。題材の最後には、「箱一つ分が1kgである」ことを伝え、今後の普遍単位の学習にもつなげられるように展開した。

中学部

数学科 Aグループ

「分けて、量って、ドーン！～クッキーを作ろう～」

【目標】等分を理解し、全体の量と指定された量から割合を求め、同じ量に分けることができる。



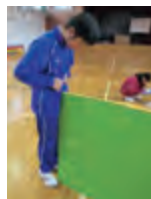
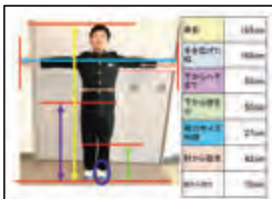
全体の量（基準量）と指定された量（比較量）の二つの数量関係を理解できるように、計算で割合を求め図に表したり、実際に等分したりする学習を設定した。行事と関連付け、直方体のクッキー生地を等分する活動を設定することで、生徒が意欲的に取り組み生活の中で活用しようとする態度を育むことをめざした。

高等部

職業数学科 A2グループ

「正確な大体～長さ編～」

【目標】自分の体の部位を基準にして大体の長さを捉えることができる。



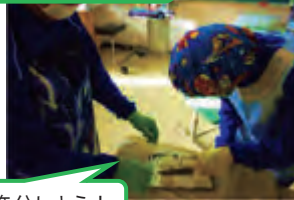
生活経験が少ない生徒たちにとって視覚的に捉えやすい「長さ」を取り上げた。感覚は人によって異なるので、長さを捉える際の基準として、生徒にとって身近な体の部位を取り上げ、生活の中で活用できるようにした。実物に近い基準を選び予測する活動を繰り返すことで、感覚的に大体の長さを捉える力を身に付けることをめざした。

授業外の場面での生徒の変容

授業で学習したことと日常生活との関連付けの大切さを改めて感じた。授業外の様子について教員同士で共有するようになり、授業で学習したことを他の場面でも生かせる支援を心掛けるようになった。



僕の体重は箱〇個分!?
そんなにあるの?



豆腐を8等分しよう!



椅子の前後は〇cmあげよう!



大体あと〇cm!
がんばれ!

小学部の学習指導要領に基づく
学習内容記録表の作成 (H30)

全校で活用できる学習指導要領に基づく
学習内容表の作成 (R1)

①児童の個の学びの履歴としての記録



学習内容に偏りはなくか？
習得の状況は？

②学習グループごとに授業計画や記録として活用



学習内容に偏りはなくか？
年間指導計画との対応は？

年間指導計画、個別の指導計画の作成
や評価に生かすことができた。

○児童生徒によっては、下学年・下学部の内容を取り扱う必要がある。

○小・中・高の12年間の学びを系統的に捉えて学習計画を立てる必要がある。

○全校で共通の内容表があれば、それを基に学びの履歴を引継ぎ、学部の移行がスムーズにできる。

○学習指導要領を基にした内容表なら、学校が変わっても対応できる。

小学部から高等部までの学習内容を網羅した全校で共通のツールとして、学習内容表を活用しよう！

【算数・数学】図形領域 学習内容表				特別支援学校学習指導要領（文部科学省）参照				
学部	小学部			中学部		高等部		
段階の目標	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階	
			小1	小2	小3・4	小4・5	小5・6	
B 図形 (小学部1段階はC)	ア 類別や分類・整理 ⑦指差し、つかむ、進視 ⑧形の区別 ⑨形が同じもの選択 ⑩似ているものの結び付け ⑪組み合わせ ⑫同じ同士の集合づくり	ア ものの分類 ⑦色や形、大きさでの分類 ⑧用途及び機能での分類	ア 身の回りのものの形 ⑦身の回りのものの特徴 ⑧具体物での形成・分解 ⑨方向や位置に関する言葉を用いた位置の表記	ア 図形 ⑦直線 ⑧三角形や四角形 ⑨正方形、長方形及び直角三角形 ⑩箱の形の構成や分解 ⑪図形の性質の表現 ⑫図形や簡単な図表の作成 ⑬図形による平面数き詰め	ア 図形 ⑦二等辺三角形、正三角形などの関係 ⑧定規などを用いた作図 ⑨角 ⑩直線の平行や垂直の関係 ⑪円の中心、半径及び直径の直径など	ア 平面図形	ア 平面図形	
		イ 身の回りにあるものの形 ⑦丸や三角、四角の名称 ⑧縦や横の線、十字、や口をかき ⑨形の属性に類				イ 立体図形 ⑦立方体、直方体 ⑧直線や平面の平行や垂直 ⑨見取図、展開図 ⑩角柱や円柱	イ 身の回りにある形の概形やおよその面積 ⑦概形とおよその面積	
						ウ ものの位置 ⑦ものの位置の表し方		
				イ 面積 ⑦面積の単位、測定の意味 ⑧正方形及び長方形の面積	エ 平面図形の面積 ⑦三角形、平行四辺形、ひし形、台形の面積	ウ 平面図形の面積 ⑦円の面積		

本校の教員は義務教育校からの異動者も多いため、小学校なら何年生相当か分かるようにした。

学習指導要領の文言をそのまま載せるのではなくキーワードで記載し、一目で分かりやすくまとめるように工夫した。

<算数・数学科 学習内容表 一部抜粋>

◆学習内容ごとに教材を整理

各自で作った教材が共有フォルダのいろいろなところに保存され、授業を行うときに一から教材づくりをしなければいけないということがよくあった。

各教科で学習内容ごとに教材を整理し直すことで、教材をシェアすることができ、業務改善につながった。

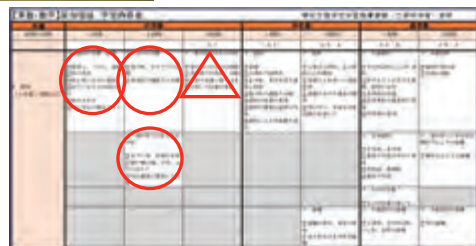


他学部の教員でも活用しやすい！

◆「学びの履歴チェックシート」



作成した学習内容表の様式は、児童生徒の個の学びの履歴をチェックするシートとしても活用している。



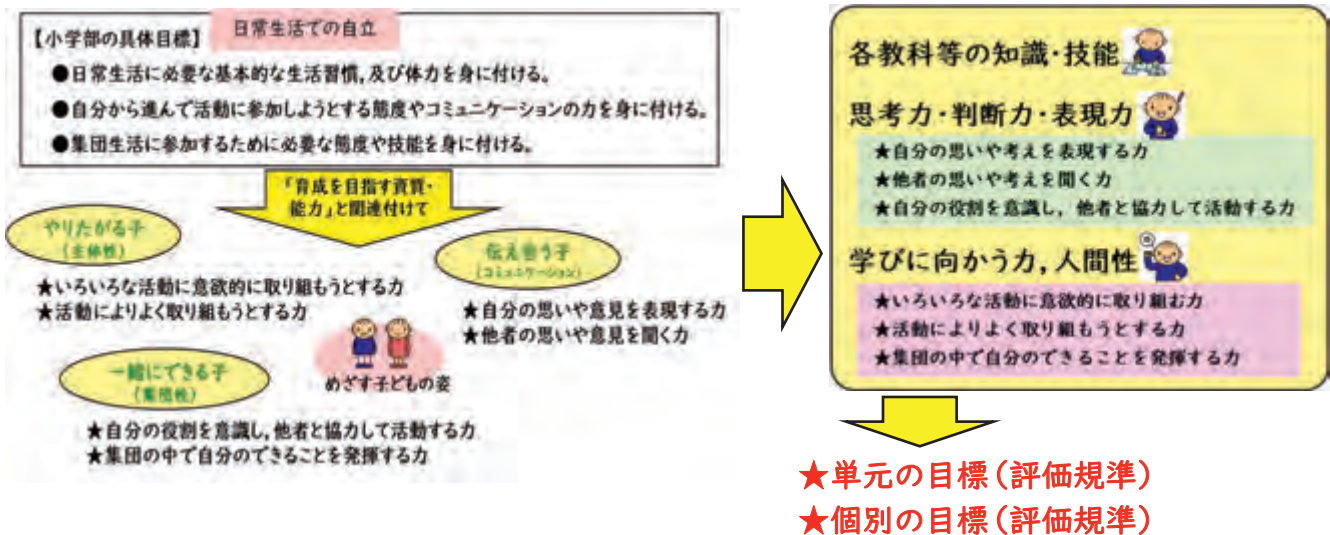
数名の児童生徒を抽出し、学習の到達度を確認し、個の指導記録としての活用について検討を始めた。

小学部の取組

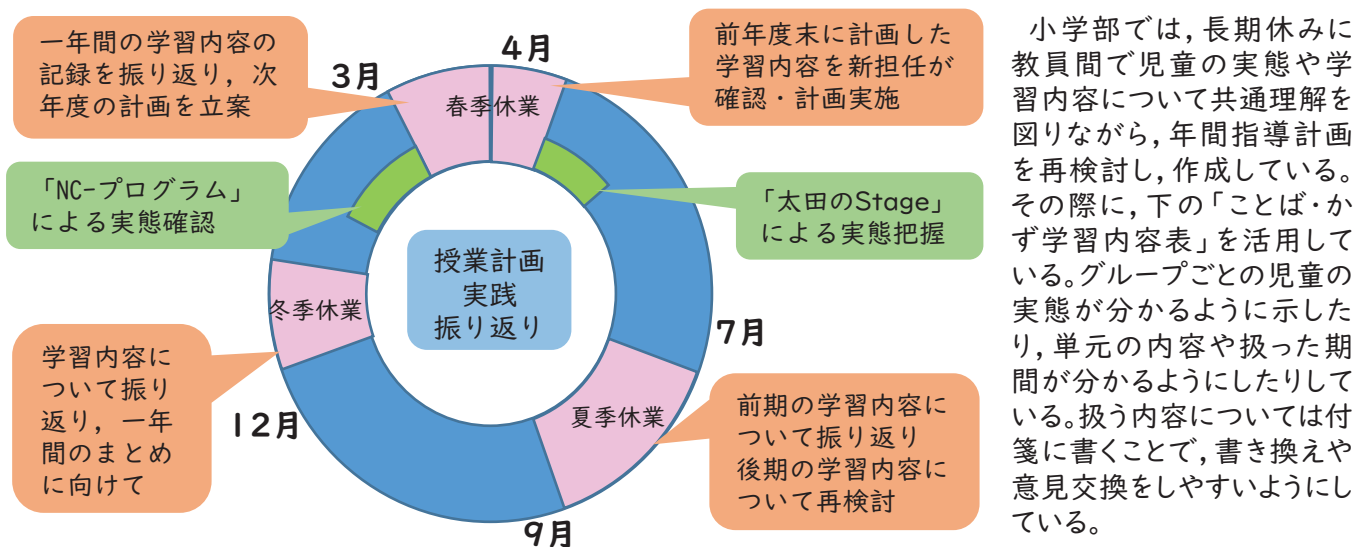
「児童のアセスメントに基づく学習内容の検討」

小学部では、「『育てたい力』の育成をめざすカリキュラム・マネジメント」の主題を受けて、児童の実態を的確に把握し、できることを少しずつ増やしていくために、アセスメントを基にした学習内容の設定が大切だと考え、アセスメントと学びの履歴を記録することに重点を置いて研究を進めてきた。

◆小学部における「育てたい力」の整理



◆年間指導計画の見直し



H30 ことば かず 学習内容表

	4	5	6	7	9	10	11	12	1	2	3
A74-T											
B74-T											
C74-T											
1/くみ											

このかた5はみに
算1段階
形3分類
分割パズル

＜ことば・かず 学習内容表＞



算数（学習指導要領で定められている学習内容）

●数量や図形などについての基礎的・基本的な概念や性質などに気付き理解するとともに、日常の事象を数量や図形

学習内容記録表

第1段階		第2段階				第3段階							
A 数量の基礎 身の回りのものに関付き、対応させたり、組み合わせたりする。 ① 数詞・数値 、 ② 分類 、 ③ 対応 、 ④ 分類		A 数と計算 10までの数の概念や表し方について、数に対する感覚を豊かにするとともに、ものとの関係に関心をもって関わる。 ① 数詞 、 ② 記号 、 ③ 順序数 、 ④ 大小比較 、 ⑤ 合成・分解				B 図形 身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。 ① 位置 、 ② 位置 、 ③ 位置 、 ④ 位置							
B 数と計算 ものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。 ① 数詞 、 ② 記号 、 ③ 順序数 、 ④ 大小比較 、 ⑤ 合成・分解		B 図形 身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。 ① 位置 、 ② 位置 、 ③ 位置 、 ④ 位置				C 図形 身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。 ① 位置 、 ② 位置 、 ③ 位置 、 ④ 位置							
C 図形 身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。 ① 位置 、 ② 位置 、 ③ 位置 、 ④ 位置		C 図形 身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。 ① 位置 、 ② 位置 、 ③ 位置 、 ④ 位置				D 測定 身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。 ① 位置 、 ② 位置 、 ③ 位置 、 ④ 位置							
D 測定 身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。 ① 位置 、 ② 位置 、 ③ 位置 、 ④ 位置		D 測定 身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。 ① 位置 、 ② 位置 、 ③ 位置 、 ④ 位置				D 測定 身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。身の回りのものや身近な出来事をつなぐ関心をもつ。 ① 位置 、 ② 位置 、 ③ 位置 、 ④ 位置							
その他 5までの数であれば、数詞とドットの数をマッチングさせることができる。 3段階の図形描画が理解できている。分類の手掛かりとなる視覚的支援があれば、分類することができるが、名称のみだと難しい。													

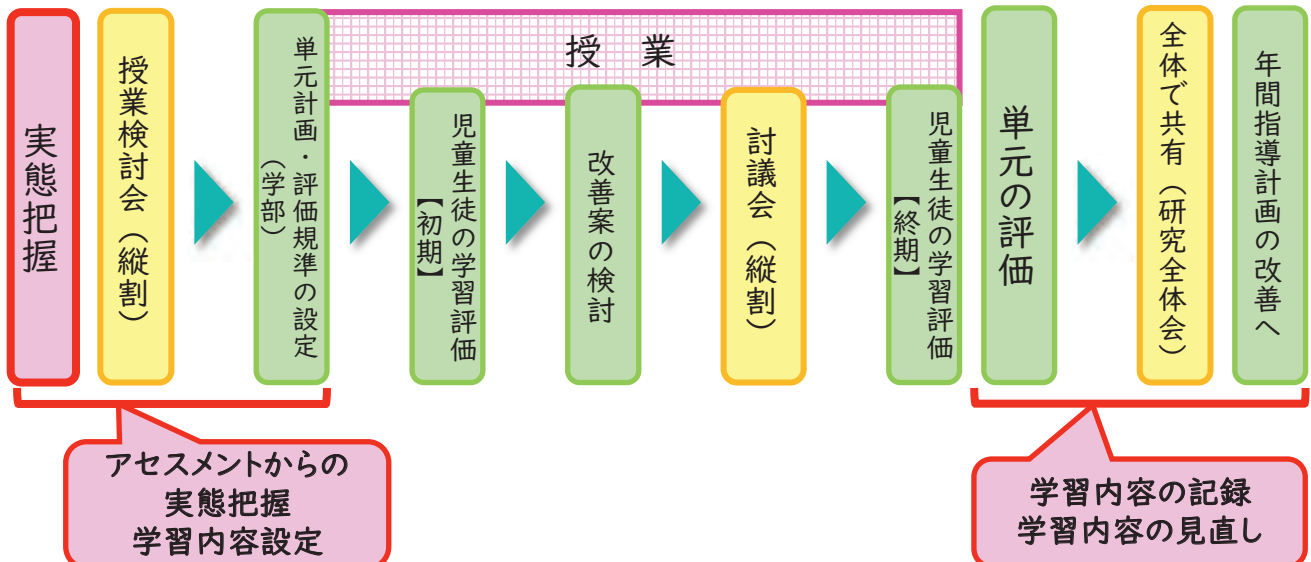
学習指導要領をもとに学習内容記録表を作成し、6年間の児童個々の学びの履歴を残すようにしている。授業後に教員間で話し合い、○△を記入し、学習内容にばらつきがないかを確認するとともに、児童の実態に応じた実践をするようにしている。

今後は12年間の学びをつなぐために作成した学習内容表(P15, 16)に学びの履歴を残すように変更していく予定である。

履修した内容には○
習得が不十分な内容には△

引継ぎとして補足説明が必要な内容について書き込めるように

◆小学部における授業づくりと単元評価



小学部の「ことば・かず」では、「太田のStage」や「NC-プログラム」により把握した段階によってグループ分けや課題設定を行っている。また、それらの検査のみでは細かな実態が十分把握できないものもあるため、学習内容によっては、内容に応じた実態を確認するようにしている。そこから、課題の設定や目標設定を行うことに重点を置き授業を計画している。

◆成果と課題

成果

- ・年間指導計画の見直しのサイクルを作ることができ、児童の実態を踏まえた、定期的な見直しを実施することができた。
- ・アセスメントや学びの履歴から児童の実態に応じた学習内容の設定を意識できるようになった。

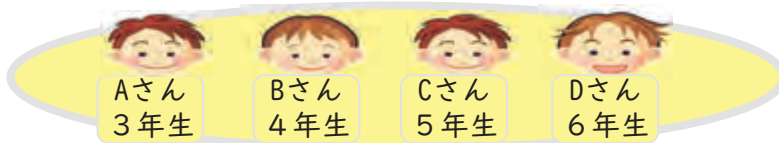
課題

- ・教科横断的な視点で、児童の実態に合った学びの場を設定し、年間指導計画に生かしていくこと。
- ・学びの履歴を記録していき、子どもがどう成長していったか長期的な視点で見取りを行い、年間指導計画や個別の指導計画の見直しに生かしていくこと。

<国語科実践>ことば・かず Bグループ

単元名「物語を聞いて、表現しよう～三匹のこぶた～」

◆ 児童の実態把握



シンボル機能が芽生えてきたり、ほぼ獲得されつつあり
名詞理解は進んでいる段階の児童(「太田のStage」より)

表出言語がほとんどなく、言語理解が難しい児童が多い

日常的に聞き慣れた指示は分かってきているが、まだ
動きの言葉のみでは理解が難しい

物語の読み聞かせを通して、動詞についても語彙を
広げ、それを表現することを
目標にしよう。

単元の目標

- ・簡単な物語を聞いて、話の場面を表現したり選択したりすることができる。

◆ 学習評価・支援改善プロセスシート

育てたい力	評価規準	単元初期			研究授業後			単元終了時
		評価	意見	支援の改善案	評価	意見	支援の改善案	エピソード等
Dさん ☆自分の 思いや考 えを表現 する力	・簡単な文章 を聞いて、イラ ストを選んだり 具体物を操作 したりして場 面を表現する ことができる。 (思・判・表)	△ △:最初戸惑う様子 が見られたので画 面を表示すると選ぶ ことができた。 △:プレゼンテーショ ン画面を指さされて 促されてからイラス トを選んでいた。	・自分で思考で けるようにイラス トの提示を遅く する。 ・音声のみで選 択できるように、 手掛かりのイラ ストを隠す。	◎:教員の言葉を聞いて 正しく選択し活動で きている。友達の様子 にも注目できている。 ◎:せりふを聞いてすぐ に活動できていた。個 別では不安そうだが一 人で選ぶことができて いた。				

◆ 授業評価からの学習内容の見直し 単元PDCAシート (何を学ぶか)

討議会で の意見	・小学部段階では物語を扱うことが多く、様々な話に触れる良い機会になる。 ・中学部・高等部になると、より具体的な表現や説明文を扱うようになる。小学部の段階で様々な語彙や事物に触れておくことは大切。 ・物語を聞いて表現する活動は、小学部ならではの活動。聞くだけでなく身体表現することでより理解も深まるのではないか。			
単元について の評価	指導内容	イラスト操作を先に行ったが、 具体物を使った表現を先に行う方がよかった。	指導形態	集団にこだわらずに個別を重視する部分があってもよかった。 個別で身に付けたことを生かせる集団学習にする。
	実施時期	適切	時数	適切
単元について の改善点	・物語に出てくる具体物はなじみのない物が多かった。話の内容や登場する物を見童の実態に合わせて変えて、どのくらい分かって活動できるのかを見る機会があってもよかった。 ・児童の実態に応じた、物語の精選は必要。どの内容を扱ったかは記録に残していく。 ・児童の語彙を広げたり、表現方法を広げたりするためには、より身近な言葉から学び、日常生活に生かしていくことが大切。物語の中でそれが狙えるような、内容設定や環境づくりをしていく。			

<算数科実践>ことば・かず Aグループ

単元名「箱幾つ分の重さかな?～運べる荷物を見付けよう～」

◆ 児童の実態把握



基本的な比較の概念形成の芽生えを獲得している段階の児童(「太田のStage」より)

「重い」「軽い」の言葉の意味の理解はあるが、「釣り合う」という状態については分かっていない児童が多い。

重さを予想したり比べてみたりする経験が少ない。



基準の重さと比較して「重い」「軽い」を体感して表現できるようにしよう。

単元の目標

・具体物の重さを予想し、天びんを使って比べることができる。

◆ 学習評価・支援改善プロセスシート

育てたい力	評価規準	単元初期		研究授業後		単元終了時 エピソード等	
		評価	意見	支援の改善案	評価		意見
Cさん ☆自分の思いや考えを表現する力	箱幾つ分かで予想したり、結果から分かったことを友達や教員に伝えたりすることができる。(思・判・表)	△	△:任意単位を使って予想するということの経験が少ないため、まだ難しかった。 △:話型を手掛かりに発表はできているが、箱幾つ分の予想はできていなかった。	・実際の天びんを使って量る前に箱幾つ分かを予想して、その個数を一度に乗せるようにする。	◎	◎:箱幾つ分かを見当付けることができ、大体合っている。「〇個減らして」など釣り合わせるためにどうしたらよいか分かっている。	
						自分の体重が「箱幾つ分か」を聞いてびっくりしていた。	

◆ 授業評価からの学習内容の見直し

単元PDCAシート (何を学ぶか)

討議会での意見	・比べることで重い軽いが分かるよりも、将来的には天びんを用いて同じ重さが分かって量り取りをすることが多い。 ・小学部段階ではしっかりと体感して、重さの感覚を育てることが大切。			
単元についての評価	指導内容	生活で必要となる重さの感覚を養うために、適切な内容だった。	指導形態	集団学習で互いに学び合う場面も見られたが、個別学習の機会も設定して知識を身に付けることも必要。
	実施時期	長短についての学習を十分に行ってから、本単元を行う方が良い。	時数	適切
単元についての改善点	・目的意識をもって学習できるように、導入を工夫したが、知識を身に付けるためには、考える要素が多くなりすぎ、思考の過程が複雑になった部分があった。もっとシンプルな授業の流れがよかった。 ・重さの感覚を養い、知識を身に付けるためには、単純に重さだけに注目して、直接重さを比べる活動や同じ重さの物を見付けるなどの活動のみでもよかった。 ・日常生活とも関連付けながら、重さを体感し、量感と言葉を結び付けられるような機会を設定していくことが必要。			

中学部の取組

「行事を通して生活につながる学習内容の検討」

中学部では、学部の目標である「集団生活での自立」をめざし、行事を通して集団で活動することが多い。そのため、行事とつないだ年間指導計画を設定し、学んだことが生活の場での実践に生かせることをねらいとした授業実践を行っていくことで「育てたい力」の育成に努めてきた。

◆「育てたい力」の見直し

集団生活での自立

【中学部の具体目標】

- 基本的な生活習慣の向上を図るとともに、体力の保持・増進に努める。
- コミュニケーション能力や社会性を養い、主体的に集団に参加する力を高める。
- 働くことに関する基礎的な知識や態度を育てる。

本人・保護者の思いや願い

★保護者アンケート

★保護者の希望リスト



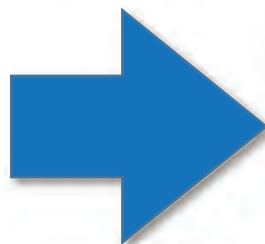
生徒の実態

★S-M社会生活能力検査



他学部との系統性

★段階的・系統的な積み上げ



育てたい力の
見直し

各教科の知識・技能

思考力・判断力・表現力 等

- ・自分の思いや考えを表現し、相手に伝える力
- ・他者の思いや考えを聞き、対応する力
- ・集団で改善を考える力

学びに向かう力、人間性 等

- ・目標を意識して意欲的に取り組む力
- ・自分から役割を果たそうとする力
- ・自分の得意を生かしながら、共に取り組もうとする力

◆年間指導計画の見直し

主な学校（学部）行事



ふれあい祭り(学校祭)



キャンプ



忘年会

学部全体で取り組んでいる



- ・教科で学習したことを生かす場
- ・集団で、課題解決を図る場



教科横断的な視点での
行事とつないだ年間指導計画の見直し



中学部では、学部全体で学校・学部行事に取り組んでいる。その中には、学習したことを生かす場や、集団で課題解決を図る場が多くあると考え、教科横断的な視点で、年間行事を軸とした学習内容を示す年間指導計画を作成したいと考えた。

年間指導計画

月	年間行事
4	新入生歓迎会
5	運動会
6	1組宿泊学習 2, 3組校外学習
7	キャンプ

年間行事

月	年間行事	4グループ	配慮事項
4	新入生歓迎会	計算よう (2-A-A, イ, ウ) 4位数の整数の加法、減法、及び、1位数と1位数の乗法の計算ができる	
5	運動会	時計を読む (1-C-イ) 時刻を正しく読み、生活の中で使うことができる 何分前、何分後を正しく計算し生活の中で生かすことができる	学校の日課や自分の家での生活 (起床、就寝、食事の時間など) と関連付けて指導する
6	1組宿泊学習 2, 3組校外学習	買い物しよう① (2-A-イ) 物の値段と財布の中のお金を見て、丁度の支払やお釣りの金額が少なくなるような支払ができる	買い物学習 (校外学習やキャンプ) を扱う
7	キャンプ	計算のついでに (1-B-A) かさの単位 (cc, ml) を知る	買い物学習 (校外学習やキャンプ) を扱う
9		買い物しよう② (2-A-イ) 物の値段と財布の中のお金を見て、丁度の支払やお釣りの金額が少なくなるような支払ができる	
10		ものさしや... ...によって、正しく測定することが	

買い物学習 (校外学習やキャンプ) を扱う

配慮事項
学習内容を活用する場

題材名 学習指導要領の位置付け
学習のねらい



年間指導計画に、年間行事・題材名、学習指導要領の位置付け、学習のねらい・配慮事項、学習内容を活用する場を記入する枠を設けた。そうすることで、行事に合わせて指導する内容と時期を考えたり、学習内容の偏りがないようにすることができると考えた。

「育てたい力」を基にした個別の指導計画の検討

思考力・判断力・表現力 等

- ・自分の思いや考えを表現し、相手に伝える力
- ・他者の思いや考えを聞き、応対する力
- ・集団で改善を考える力

学びに向かう力、人間性 等

- ・目標を意識して意欲的に取り組む力
- ・自分から役割を果たそうとする力
- ・自分の得意を生かしながら、共に取り組もうとする力

令和2年度 前期 第3学年 氏名 K男		国語	数学	社会	保健	音楽	美術	体育	生活	総合	特別	P
前期目標												
仕事	・自分から仕事を見つけて、最後まで取り組むことができる。								○	○	○	○
余暇	・友達と楽しめる運動や遊びの種類を増やすことができる。				○				○	○		○
集団生活	・仲間に声を掛け、協力しながら活動に取り組むことができる。	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
日常生活	・自分の考えや気持ちを適切な言葉で友達や指導者に伝えることができる。6-(5) (自活)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○



「育てたい力」を基にして個別の指導計画の目標を設定している。そうすることで、授業実践後の評価が「育てたい力」と個別の指導計画の評価につながると考えた。

成果と今後の取組

成果



- ☆行事等で活用することをねらって単元や学習内容を計画し授業づくりを行うことで、学習成果を発揮する場を設定することができ、生徒の伸びを評価できるようになってきた。
- ☆授業実践後の評価を次年度の年間指導計画の見直しへとつなげるサイクルができてきた。

今後の取組



- ★授業実践後、学習内容表を基に生徒の学びの履歴を記録したり、変容を見取ったりして年間指導計画や個別の指導計画の見直しに生かしていくこと。
- ★他学部との系統性を考慮した学習内容の充実を図るとともに、精選しながら年間指導計画を改善していくこと。

<国語科実践> Bグループ

単元名「様子の言葉を考えよう～ようするに、便利なんです～」

行事の内容から必要な力を身に付ける

◆生徒の実態把握・縦割グループでの検討会から…



中学部教員

生徒の実態として、自分の気持ちや考えを話して伝えようとする生徒が多く、友達や教員とよく会話をしている。話したい気持ちを大事にでもっと分かりやすく伝える表現力を身に付けるにはどうすればいいかな…

小学部から…
小学部では分かりやすく話するための話型に当てはめて話す学習をしているよ。



高等部から…
色や大きさ、様子など聞き手とイメージを共有できるような表現力が身に付くといいね。



生徒に指示を出すとき「ちょっと」や「もっと」など曖昧な表現をすることが多いな。曖昧な表現を理解して応じたり話したりできると、校外など視覚支援がしにくい場でも適切に行動できそうだな。様子を表す言葉を学習してみよう。



中学部教員

◆授業の流れ



学習活動①
動画を見て、言葉に対応した動作を選ぶ



学習活動②
写真を見て動作に合う様子の言葉を考えて短冊に書く



学習活動③
考えた言葉を全体の場で発表し、動作化する



学習活動④
活動を振り返る

◆授業評価からの学習内容の見直し

単元についての評価	指導内容	適切	指導形態	適切
	実施時期	適切	時数	適切
単元についての改善点	・学習した内容を行事や生活の場で生かせるように、教員が意図的に曖昧な表現の指示を出し、生徒が判断して行動できる場をつくとよい。 ・生徒から出てきた本来の使い方と違う言葉をどこまで許容するかを考え、実態に応じて正解に近付けていく必要がある。			

◆授業実践後の生徒の様子

保護者から…
帰宅後「お腹が…えっと何て言うんだっけ?あ、ペコペコだ」と様子を表す言葉を使って話してくれました。



「ピンと」ひもを張る

作業学習で…
「ピンとひもを張って」の指示に従って、農耕の作業に取り組む姿が見られた。



「太陽がキラキラして楽しかったです。」

キャンプ振り返りで…
「海で太陽がキラキラして楽しかったです。」と様子を表す言葉を使って発表する姿が見られた。

月	
4月	入学 新入
5月	春季
6月	校外
7月	キャ
9月	合同
10月	3組
11月	職場
	ふれ
12月	忘年
1月	
2月	持久 校外 卒業
3月	卒業

<数学科実践> Aグループ

単元名「分けて、量って、ドーン!~クッキーを作ろう~」

学習で身に付けた力を発揮する場を行事に設定する

◆ 生徒の実態把握・縦割グループの検討会から…



中学部教員

生徒の実態として、長さやかさの学習をして目盛りを読み取ったり、大体の数量を見当付けたりすることができるようになってきている。
重さの学習でどんな力を身に付けることができるかな…

小学部から…
小学部では、「半分」の学習で連続量(水や粘土など)を分ける活動を取り入れたことがあるよ。

高等部から…
「基準の量」を基に考える学習を行ったら、いろいろな生活場面で生かすことができると思うよ。

全体の量を等分して効率よく分けることができるといいな。計算力がある生徒が多いので、何等分するか計算で求めることができそうだな…
忘年会でクッキーを作って配る場を設定しよう。



中学部教員

◆ 授業の流れ



学習活動①
割合を求め、ワークシートに等分する線を書き込む

学習活動②
求めた割合をペアで確認し合う

学習活動③
クッキーの生地を見当付け等分する

学習活動④
活動を振り返る

◆ 授業評価からの学習内容の見直し

単元についての評価	指導内容	適切	指導形態	・学習内容と指導形態の整理が必要
	実施時期	適切	時数	・生徒の実態に合わせて十分な時数を設定すると良い
単元についての改善点	・忘年会でクッキーを配るという場を設定したことで、生徒は目標を意識して学習に取り組むことができた。 ・数学科で割合を求める計算や見当付けて等分する活動と、等分する技能を高める活動に分けて指導形態を整理するとよいのではないか。			

◆ 授業実践後の生徒の様子



授業実践後の忘年会では、学習したことを生かして等分した生地で作ったクッキーを作って友達に配ることができた。
調理での材料を切る際には、豆腐を8等分したり、しいたけを2等分したりするなど、同じ大きさに切ることを意識して作業する姿が見られた。

高等部の取組

「卒業後の生活により生きる学習内容の検討」

高等部では、具体目標である「社会生活での自立」に向けて、生徒の現場実習での様子、学校生活場面以外での様子、また卒業生の様子を重視して学習内容の検討を行った。それぞれの様子から考えられる成果や課題を教員間で話し合い、整理したものを年間指導計画・指導内容に具体的に取り入れることで、生徒の卒業後の生活により生きる学習内容になることをめざした。

◆「育てたい力」の見直し

「育成すべき資質・能力の三つの柱」、今までの研究・授業実践、現場実習での成果や課題、小・中・高等部の系統性、そして高等部の具体目標を基に、これまでの「育てたい力」を見直し、赤文字で示した文言を追加した。追加した文言については高等部の教員間でどのような意味合いであるかを話し合い、赤枠内で示した内容で共通理解を図った。

高等部の「育てたい力」

①自分の思いや考えを表現し、**分かりやすく伝える力**

相手を意識して伝わりやすい言葉やコミュニケーションの手段を使う。

②他者の思いや考えを聞き、**適切に対応する力**

他者の思いや考えを一方向的に受け止めるだけではなく、場合によっては自分の意思や考えも示しながら対応する。

③集団の中で考えを修正したり深めたりする力

④**目標を意識して自分を伸ばそうとする力**

目標は卒業後の生活につながるものであり、短期的な目標も一つ一つ達成していくことで卒業後の生活につながるものとする。

⑤自分の責任を果たそうとする力

⑥**集団の中で状況を理解して取り組もうとする力**

共に同じ活動に取り組む場合だけでなく、課題を解決するためにそれぞれが役割をもち、その役割に取り組むという状況も含まれる。

◆「ステップアップリスト」の作成

現場実習での生徒の様子や卒業生の様子から考えられた課題を年間指導計画に反映していくために「ステップアップリスト」を作成した。リストには現場実習中の課題だけではなく、それにつながる校内での学習場面における課題も取り入れた。リストの内容が高等部の「育てたい力」のどの力に該当するか、どの教科・領域の授業で指導可能かも併記することで、年間指導計画に反映しやすくなった。



ステップアップリスト（一部抜粋）



内容	該当の育てたい力	指導可能な授業等
スピードを意識して作業することができる。	④⑤	作, 実, 職
ミスがないように確認をしながら、作業することができる。	④⑤	作, 実, 職
指示が理解できた上で「はい」と返事をしたり、分からなかったときに確認や質問をしたりすることができる。	①②④	全, 職
様々な場面に応じた挨拶をすることができる。	①⑥	全
けがをしたり、体調が悪かったりするときに自分から伝えることができる。	①	日, 国, 作
うなずく、相づちをうつ等話を聞いているときにリアクションを取ることができる。	①②	国, 作
指導や注意を受けたときに「わかりました」「すみません」など素直に伝えることができる。	①③	全, 作, 実
ロッカーや机の中を整理できる。	⑤	暮らし, 数
鏡を見て自分の身だしなみを確認することができる。	④⑥	暮らし, 日, 全
マスクを正しく装着できる。	⑤⑥	暮らし, 日, 全
はさみ、カッターなどの道具を、適切に使用することができる。	④⑦	生, 美, 作, 実

※該当の育てたい力は上記の高等部「育てたい力」の①～⑥と対応。⑦は知識・技能の力とした。

◆「ステップアップリスト」を基にした年間指導計画・指導内容の見直し

「ステップアップリスト」に挙げられた項目を基に、各教科・領域の年間指導計画・指導内容の見直しや学部行事の見直しを行った。

基づいた項目： けがをしたり、体調が悪かったりするときに自分から伝えることができる。

見直した内容

朝の会の健康観察のときに、日直の生徒は「体調はどうですか」と全体に問い掛け、体調が悪い生徒は手を挙げて申告できるようにした。また、体調を伝えることが難しい生徒には日直が個別に問い掛け、健康観察カードを見て答えることができるようにした。

体調はどうですか？



基づいた項目： 様々な場面に応じた挨拶をすることができる。

見直した内容

社会生活を送る上で必要な挨拶を「大事な言葉」として取り上げ、日常生活場面中心の基礎編・仕事場面中心の応用編の2種類に分けて、朝の会・帰りの会でそれぞれ毎回唱和するようにした。

おはようございます
こんにちは
ありがとうございます
お願いします
はい、わかりました
できました
すみませんでした
おつかれさまです

基礎編

いらっしやいませ
少々おまちください
おまたせしました
ちょっと失礼します
教えてください
手伝ってください
お先に失礼します

応用編

基づいた項目： スピードを意識して作業することができる。

ミスがないように確認をしながら、作業することができる。

はさみ、カッターなどの道具を適切に使用することができる。



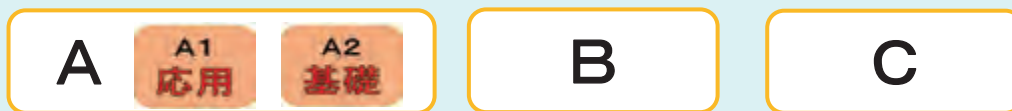
見直した内容

- 「職業科」の授業時数を週1時間から週2時間に増やし、軽作業など実務的な学習活動に取り組む時間を確保することで、現場実習での生徒の様子から考えられた課題に対応できるようにした。
- 1日を通して作業学習に取り組む「集中作業日」を年2回から年5回程度に増やすことで、ペースを落とさずに長時間作業に取り組むために必要な体力や集中力の向上をめざした。

◆教科学習における学習集団の見直し

教科学習においては、習熟度別グループに分かれて学習に取り組んでいる。各グループのつながりを意識したり、生徒の実態により細かく対応したりするために学習集団の見直しを行った。

職業数学科



Aグループ内で生活経験や数学的知識の応用力など生徒の実態差が大きかったため、Aグループを数学の基本的な内容も踏まえたA2グループと、習得した数学的な知識・技能を生かして実践的な課題に取り組むA1グループに分けた。

職業科



各クラス2グループに分かれて行っている授業を、定期的にAB各グループ合同の授業とすることで、より大きい集団でそれぞれの役割を果たしたり、協力したりしながら職業技能習得に向けた作業的活動に取り組むことができるようにした。

職業国語科における授業実践

教科学習においても「ステップアップリスト」を活用できるように、「ステップアップリスト国語編」を作成した。「ステップアップリスト国語編」では、「聞く・話す」「読む」「書く」に項目を分け、それぞれの項目は生徒の実態や課題に応じて段階的に表記したり、細分化したりした。その中で「生活に役立つ語彙を増やす」の項目について段階的に表記した内容に基づいて、習熟度別の各グループで学習活動に取り組んだ。

ステップアップリスト国語編（一部抜粋）

聞く・話す	報告をすることができる(作業の経過や完了、不調や異常について) A 具体的に説明する。 B 簡単に説明する。問い掛けられたことに答える。 C 何らかの方法で伝える。問いかけられたこと(選択肢)に答える。
読む	生活の中で必要な表示を読み取ることができる(個に応じて) 身近な英語表示、仕事に必要な表示(「立入禁止」「頭上注意」など) 仕事に必要な表示、施設の案内図、道路標識など ピクトグラム、店のマークなど
書く	丁寧に読みやすい字を書くことができる(個に応じて) 必要に応じて筆記具を使い分け、文字の大きさ等のバランスを考えて書く。 紙の大きさに合わせてバランスを考えて書く。 補助枠に合わせて書く。
聞く・話す 読む 書く	生活に役立つ語彙を増やす A 社会生活で役立つ言葉 B 日常生活で役立つ言葉 C 身の回りの生活に関わりがある出来事や物の名前、体調や気持ちを表す言葉

Aグループ 社会生活で役立つ語彙を増やすための学習活動



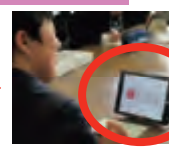
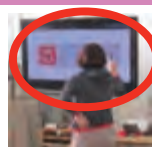
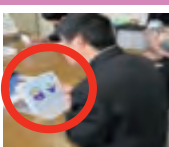
指示語(こそあど言葉)を聞いて指し示す物がある方向を指さす活動や、ロールプレイの中で指示語を使ったせりふを言って生徒同士で指示を出し合う活動など、学校生活や卒業後の生活に活用できる実践的な活動を設定して、指示語の理解を深めることができるようにした。

Bグループ 日常生活で役立つ語彙を増やすための学習活動



毎時間「言葉の学習」の時間を設定し、日常生活においてよく使われている言葉の意味をクイズ形式で確認することで、楽しみながら理解を深めることができるようにした。

Cグループ 身の回りの生活に関わりがある出来事や物の名前、体調や気持ちを表す言葉を増やすための学習活動



今日の自分の体調をコミュニケーションアプリから選択して発表したり、身近な物事の名前をデジタルボード変換機器を使って教員がテレビ画面に直接書き込み、生徒のタブレット端末に送信したりするなど、ICT機器を効果的に活用して言葉の理解をより深めることができるようにした。

職業数学科における授業実践

職業数学科では、およその量や数の見当付けをする力を高めることで生徒の将来や現在の生活の質を高めることができると考え、生活場面や仕事場面で見当付けを効果的に使う場面を具体的に想定して学習内容を検討し、「数と計算」、「測定」の領域での授業を実践した。

「数と計算」領域 「およその金額を考えよう」

単元目標:必要な情報を読み取り、概算をして予算に応じた金銭の使い方を考えることができる。



学習活動

ICカードで買い物をするときに必要な考え方を学習するために、商品カードの値札を見て10円や100円単位で概算をする買い物練習の活動に取り組んだ。活動では、実際の買い物場面を想定し、実際のICカードやカードリーダーを使用してICカードでの支払いの練習にも取り組んだ。

授業後の生徒の変容

- 授業後の校外学習で、コンビニエンスストアで買い物をするとき、ICカードを使って予算内で買い物をすることができた。
- 夏休み中に、近くのコンビニエンスストアでICカードを使えることを知り、一人で好きな物を買に行くことができた。



「測定」領域 「正確な大体～長さ編～」

単元目標:自分の体の部位を基準にして大体の長さを捉えることができる。



学習活動

自分の様々な体の部位の長さを基準として、知りたい物の長さを予測する活動を繰り返し行い、長さの感覚の精度を高めるようにした。活動では、始めに長さの感覚がつかみやすい紙テープの長さの予測を行い、その後に実際の生活に生かしやすい身近な物の長さの予測に取り組んだ。

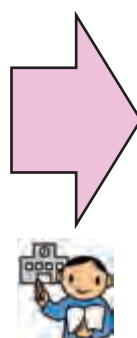
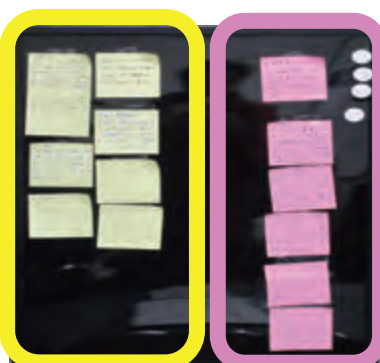
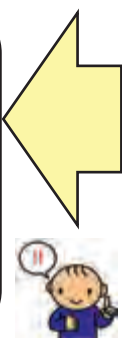
授業後の生徒の変容

- 農耕班の作業学習で花の苗植えをするときに、0cm位の間隔で植えていくように伝えたと、指定した長さに近い体の部位である自分の腕を伸ばして長さを予測し、間隔をとっていくことができた。
- 集会の準備で体育館にパイプ椅子を並べるときに、ほぼ同じ間隔で並べていくことができた。



◆授業後の生徒の変容を教員間で共有するための工夫（「エピソードボード」の導入）

授業以外での生徒のエピソード
(例) 作業学習で自分が置きたい物の縦・横の長さを考えて、机の上を片付けて置くスペースを作ることができていた。



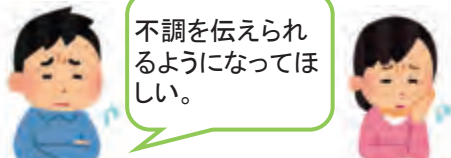
授業での学びを生かした指導
(例) 体育館で生徒が椅子を並べるときに「0cm間隔で置いて」と言うなど、長さを意識した言葉掛けをするようになった。

授業で身に付けた力が授業以外の場面でも生かされていると感じたエピソードと、日常生活場面でも授業で学んだことが生かせるよう意図して行った指導について、高等部職員室の「エピソードボード」にいつでも付箋に書いて掲示できるようにして、教員間で情報を共有できるようにした。

保健室の取組

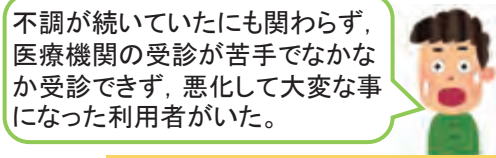
「卒業後の健康な生活につなげる保健室からのカリキュラム・マネジメント」

今回の研究では、それぞれの発達段階での生活に生かせる力を積み上げ、将来の生活が豊かになることをめざして取り組んでいる。将来の生活を豊かにするためには、生涯を通じての健康管理は欠かせないことであり、本校の学校保健目標『自分の心身の健康に関心を持ち、生涯を通じて健康な生活を送ることが出来る児童生徒を育てる。』にも通じている。保健教育だけでなく、学校での様々な機会を利用し、学びをつないでいくことで効果的に児童生徒の健康支援へつなげられると考え取り組んだ。



不調を伝えられるようになってほしい。

医療機関に行くことが苦手なので少しずつ慣れてほしい。



不調が続いていたにも関わらず、医療機関の受診が苦手でなかなか受診できず、悪化して大変な事になった利用者がいた。

「生活アンケート」からの保護者の願い

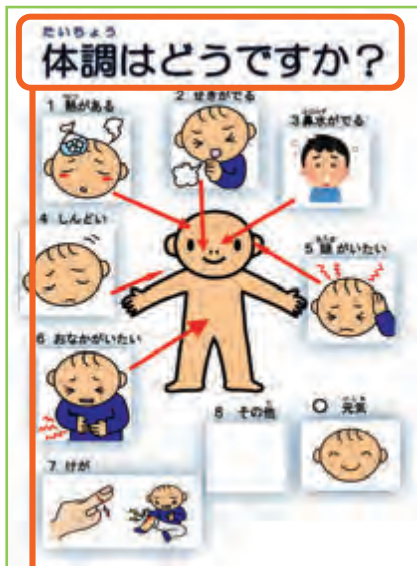
福祉事業所職員からの体験談

体調を伝えること、通院支援へつなげる取組を検討・実施した

健康観察の機会を利用した体調の伝え方の練習

健康観察は、毎朝、各学級で実施しており、児童生徒にとって身近な活動である。毎朝、継続的に実施でき、どの児童生徒も取り組める「自分の体調を伝える練習の機会」として捉え、健康観察の方法を見直した。

欠席・健康観察カードの見直し



健康チェック (番号と体画を記入する)		小3						
1 熱がある	2 せせがでる	3 鼻水が出る	4 しんどい	5 嘔吐/下痢	6 おなかがいたい	7 けが	8 その他()	◎ 元気
日								
月								
火								
水								
木								
金								
土								
日								

欠席・遅刻・早退しらべ (名前と理由を記入する)	
日	欠席
日	
月	
火	
水	
木	
金	
土	
日	

以前の健康観察カードには、体調を表すときに児童生徒の手掛かりになるようにイラスト入りの一覧表を付けていた。その内容を使用頻度が高いものにしぼり、体の図と合わせ、イメージしやすいものに変更した。

また、記入欄も健康観察と欠席等を記入する箇所を分けて、児童生徒が書き込みやすいようにした。カードをファイルに変更して、イラストを見ながら書き込めるようにした。

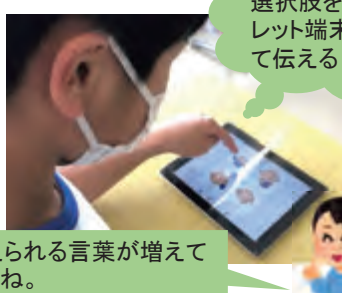


→ 高等部の朝の会の健康観察で、「元気ですか?」と聞くと、体調が悪くても形式的に「元気です。」と答えてしまう現状があった。そのため、「体調はどうですか?」という問い掛けに変更し、国語の授業でもこの問い掛けを使って体調を伝える学習をした。このことから、健康観察カードの問い掛けを「体調はどうですか?」に統一した。

体調の伝え方は児童生徒の実態に応じて担任がアレンジ

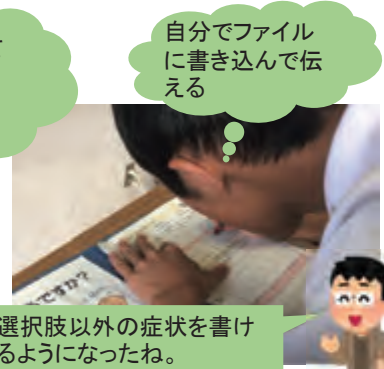


言葉の理解が難しい場合は二つのイラストから選ぶ



理解力にあわせて選択肢を絞りタブレット端末で指さして伝える

伝えられる言葉が増えてきたね。



自分でファイルに書き込んで伝える

選択肢以外の症状を書けるようになったね。

健康診断の機会を利用した通院支援の取組 ～やまもも病院へ行こう～

本校では、歯科受診への抵抗を減らす取組として「やまもも歯医者さんに行こう」という保健指導があり、診察券を持って歯科医院に見立てた保健室へ行き、個別の歯磨き指導を受けるという指導に取り組んできた。この指導を歯科受診以外への通院支援へ広げ、今までの指導を生かしながら、健康診断の機会を利用した通院支援の指導に取り組んだ。

医療機関の受診に見立てた健康診断の実施

○医療機関の受診に近い形の手順で全ての健康診断を実施

1. 診察券を入れる
2. カルテをもらう
3. 待合室で待つ
4. 名前を呼ばれたら診察室に入ってカルテを渡す
5. 健康診断を受けてカルテをもらう
6. 受取ったカルテを受付に渡す
7. 診察券をもらって教室に戻る



診察券を入れてください。



自分の診察券を『やまもも病院』に持って来ます



病院的待合室は静かに待たないといけないね。



受診した健康診断はカルテにチェック



上手に受けられたね。

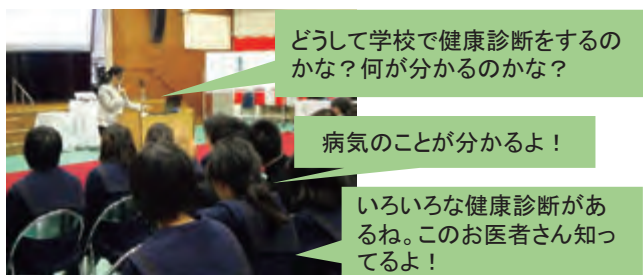
〇〇です。よろしくお願いします。

ありがとうございました。

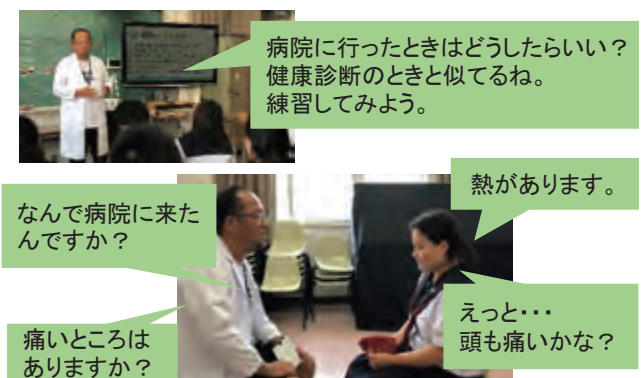


健康診断からつなげる保健教育

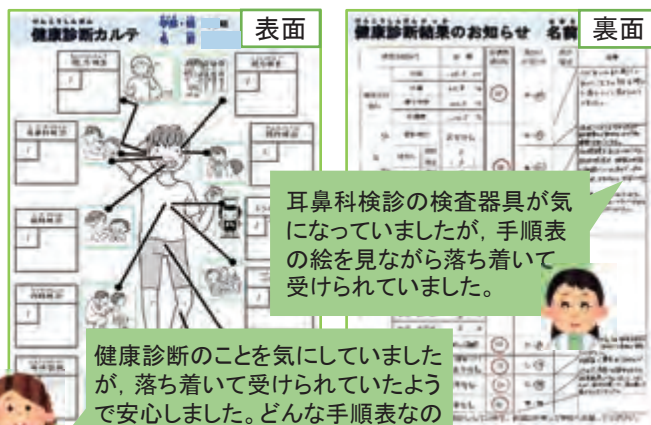
健康診断の事前指導



高等部 保健 『病院へ行こう』



「健康診断カルテ」をとおして保護者と情報共有



参考資料
『健 2019年4月号』日本学校保健研修社

健康診断名の理解が難しい児童生徒もいるため、何の健康診断なのか分かるように、イラスト入りの健康診断カルテを作成し、受診時に使用。児童生徒が健康診断の見通しをもったり、自分で結果を確認したりできるようにした。カルテは受診後に各家庭へ持ち帰り、保護者に確認してもらう。カルテの裏面には、結果と医療機関の受診の必要性とともに、健康診断受診時に気になったことなどを記入。医療機関を受診する際の参考にしてもらうために、受診の様子、学校での支援の様子などを記入した。



本研究のまとめ

◆「育てたい力」の育成につながる授業実践と学習評価



	知識・技能	思考力・判断力・表現力等	学びに向かう力・人間性等
小学部	自分の思いや考えを表現する力 他者の思いや考えを理解する力	自分の思いや考えを整理し、他者に伝える力 他者の思いや考えを整理し、他者に伝える力	いろいろな活動に積極的に取り組む力 困難により奮い立ち乗り越える力
中学部	自分の思いや考えを整理し、他者に伝える力 他者の思いや考えを整理し、他者に伝える力	自分の思いや考えを整理し、他者に伝える力 他者の思いや考えを整理し、他者に伝える力	困難を乗り越え、達成感を得る力 自分の成長を喜び、他者に伝える力
高校部	自分の思いや考えを整理し、他者に伝える力 他者の思いや考えを整理し、他者に伝える力	自分の思いや考えを整理し、他者に伝える力 他者の思いや考えを整理し、他者に伝える力	困難を乗り越え、達成感を得る力 自分の成長を喜び、他者に伝える力



＜本校の児童生徒に「育てたい力」＞



アセスメントやアンケート結果を基に、児童生徒の実態に沿って「育てたい力」を再整理し、学校全体で児童生徒の学びをつなぐ意識をもつことができるようになった。「育てたい力」を基に授業計画を組み立て、実践を評価し、年間指導計画の改善を行うことができた。



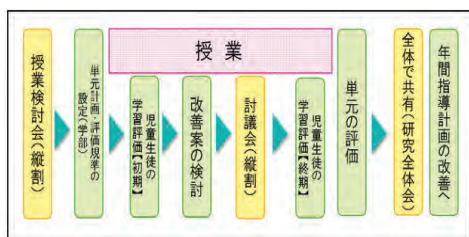
育てたい力	評価指標	学習指導案	授業実践	学習評価
自分の思いや考えを整理し、他者に伝える力	自分の思いや考えを整理し、他者に伝える力	自分の思いや考えを整理し、他者に伝える力	自分の思いや考えを整理し、他者に伝える力	自分の思いや考えを整理し、他者に伝える力

学習評価の際には、「育てたい力」を基に設定した評価基準について、単元初期と終期の評価を行った。それに加えて、他の生活・学習場面でのエピソードを収集して教員間で共有することで、広い視点で「育てたい力」について評価することができた。



本研究に関わる授業実践の学習指導案、単元PDCAシートは本校ホームページに掲載

◆縦割グループの取組を組み込んだカリキュラム・マネジメントサイクル



＜授業づくりと単元計画・評価の流れ＞

縦割グループでの授業検討会や討議会を組み込んだカリキュラム・マネジメントのPDCAサイクルを検討し、実践することができた。縦割グループの取組を通して、これまであまり関わることがなかった他学部の児童生徒の実態が分かり、それぞれの実態に沿った学習内容や指導・支援のねらいについて知ることができた。授業を行う学部の教員にとっても、「育てたい力」に焦点をあてて他学部の教員と授業について議論することは、取り上げる学習内容の基礎となるのはどのような力か、今後どのように発展していくか考えたり、ねらいや支援の在り方を見直したりすることにつながった。

普段あまり話すことのない他学部の先生とも話せていろいろな考えを知ることができた。



チーム附属として

【教員間の交流】

これまでの研究は各学部で行うことが中心だった。他学部の教員とざっくばらんに話し合う機会が、新たな気付きや関係づくりにつながった。

◆学びをつなぐツールとしての学習内容表

領域	算数			数学		
	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	3段階
算数・数学	算数の基礎 算数の基礎 算数の基礎	算数の基礎 算数の基礎 算数の基礎	算数の基礎 算数の基礎 算数の基礎	算数の基礎 算数の基礎 算数の基礎	算数の基礎 算数の基礎 算数の基礎	算数の基礎 算数の基礎 算数の基礎

＜算数・数学科 学習内容表 一部抜粋＞

国語科、算数・数学科について、学習指導要領を基に学習内容表を作成し、全校で共通の学びをつなぐツールとしての活用をスタートさせることができた。

各学部の年間指導計画について、各単元を学習内容表の段階と対応させ、学習指導要領という「共通のものさし」で学習内容を把握できるようになった。

▲学習内容表は、各学習グループでの授業計画や学習の記録として手探りで活用を始めたところである。より良い活用の仕方については今後も検証する必要がある。

個の学びをつなぐ視点での活用に向けて



作成した学習内容表は、「学びの履歴チェックシート」として、児童生徒の学びの履歴や学習到達について記録を始めた。

▲「教員によって異なる学習到達の判断をどのように考えるか?」、「引継ぎの資料としてどのように活用するか?」等、課題は多々ある。今後活用していきながら、引き続き検討していく。

▲「個の学びのつながり」という視点で考えたときに、地域の小学校から本校中学部、中学校から高等部など、外部の学校から入学した生徒の学びの把握は、引継ぎを行ってはいらぬもの十分とはいえない。今の段階の学習のベースとなる学びの履歴をどのように把握し、本校での教育に生かしていくか検討する必要がある。

▲既にある個の学びや指導・支援について記録する「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」「学校通信(成績表)」等との関連、内容の整理ができていない。より活用しやすく、支援に役立ったと実感できるように検討する必要がある。

本研究に取り組むにあたり、研究主題が大きく変わることによって試行錯誤しながらのスタートとなったが、児童生徒がどのような力を身に付け、どのような生活を送ってほしいかを思い描きながら、全教員で「育てたい力」を共有することで、本校としてめざすカリキュラム・マネジメント像が明確になっていった。また、カリキュラム・マネジメントを進めていくうえで、本校が長年取り組んできた授業づくりのノウハウも効果的な研究の推進となり、一つ一つの授業のPDCAサイクルの積み重ねが、カリキュラム・マネジメントのPDCAサイクルへとつながっていった。小・中・高の教員が、縦割グループでの活動を中心として、12年間の学びのつながりを意識して授業実践を計画、評価したり、年間指導計画を見直したりすることで、授業実践から始まるカリキュラム・マネジメントの土台が徐々にできていったのではないかと考える。

学校としてのカリキュラム・マネジメントについては整いつつあるものの、個の学びをマネジメントするという点では十分ではない。児童生徒一人ひとりのライフステージ全体が豊かなものになるために、どのような学びを積み重ねていけばよいか、長期的な視点で検討していく必要があると考える。

【引用・参考文献】

- ・香川大学教育学部附属特別支援学校(2018) 第19回 研究紀要
- ・渡邊昭宏(2013) みんなのライフキャリア教育(明治図書)
- ・丹野哲也/武富博文(2018) 知的障害教育におけるカリキュラム・マネジメント(東洋館出版)
- ・中央教育審議会(2016) 幼稚園, 小学校, 中学校, 高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善及び必要な方策について(答申)
- ・文部科学省(2017) 特別支援学校教育要領・学習指導要領
- ・文部科学省(2017) 特別支援学校教育要領・学習指導要領解説 総則編(幼稚園・小学部・中学部)
- ・文部科学省(2018) 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(小学部・中学部)
- ・文部科学省(2019) 特別支援学校 高等部学習指導要領
- ・文部科学省(2020) 特別支援学校学習指導要領解説 総則等編(高等部)
- ・文部科学省(2020) 特別支援学校学習指導要領解説 各教科等編(上)(高等部)

おわりに



本校のシンボルとして、玄関前に大きな「やまもも」の木があります。「やまもも」の木には、毎年小さくてかわいい真っ赤な実がなります。それにあやかって本校のマスコットキャラクターとして「やまちゃん」「ももちゃん」が誕生しました。また、日常生活訓練棟を「やまももの家」、教育相談事業は「やまもも相談センター」、「やまもも教室」という愛称で呼ばれ、関係者のみなさんに親しまれています。さらに、今年度から新たに、HPに「やまももチャンネル」を開設しました。『やまもも』を通じて、皆さんとのつながりがさらに広がることを期待しております。

今研究発表会は、これまでに経験のないコロナ禍の中での開催となり、従来のように本校を会場とする大会を開催することができなくなりました。そのような中、3年間取り組んできた研究の成果を何とか発信したいという思いから、今回はWEBでの開催に踏み切ることになりました。この研究紀要も、本校の研究をより多くの方に分かりやすく伝えるために、フルカラーでコンパクトなものに仕上げました。その分、細かい部分を十分伝えきることができていないかもしれません。研究発表会の後も、HP上で成果を発信していく予定です。是非ご覧いただき、忌憚のないご意見をいただきたいと思っております。

最後になりましたが、本研究を進めるにあたり、香川県教育委員会 藤田明様、高松市立国分寺南部小学校 植松克友様、いのやま福祉会 野の花 猪熊優子様には、外部指導者として3年間にわたって豊富なご経験と高い見識から多くのご指導・ご助言をいただきました。また、福岡教育大学 一木薫様、兵庫県教育委員会 田中裕一様には、新学習指導要領改訂におけるカリキュラム・マネジメントの視点からご指導・ご講話をいただきました。さらに、文部科学省 佐々木邦彦様、富士通株式会社 杉妻謙様には、ICT推進に係る情報提供をいただきました。香川大学の武藏博文先生、西田智子先生、恵羅修吉先生、坂井聡先生、小方朋子先生、中島栄美子先生、宮前義和先生、山本木ノ実先生、松島充先生からは、研究協力者として専門的なご意見と研究の進め方をご教授いただきました。謹んでお礼申し上げます。また、本校の取組にご理解・ご協力いただいた保護者の皆様、ともに歩んでくれた児童生徒の皆さんに心より感謝申し上げます。



副校長 大西 祥弘

【研究同人】 平成30年度～令和2年度

(○印は研究部員)

<令和2年度>

校長 青山 夕夏
副校長 大西 祥弘
教頭 鈴木 弘恵 (小学部)
研究主任 ○藤澤 麻子 (高等部)
小学部 細川 典子 宮武 ちか子 長井 隆晃 ○松下 圭輔 ○平岡 千明
片山 みなみ 朝倉 由里乃
中学部 榎並 浩 ○青井 香織 ○松本 裕美 ○山西 江里子 豊嶋 実知代
横山 依子 江淵 健太郎 西浦 修平 ○沼田 類
高等部 藤尾 知成 圖子 美由紀 詫間 克久 三好 ひろみ ○秋山 嘉光
塩田 友亮 ○横田 香織 ○佐藤 正明 石丸 義久
富川 妙日子 (養護教諭)

<令和元年度転出>

小学部 松岡 大我 (香川県立香川中部養護学校)
中学部 粟井 雅子 (坂出市教育委員会主任指導主事)
徳永 千恵子 (香川県教育センター主任指導主事)
光家 啓介 (丸亀市立城北小学校)

<平成30年度転出>

小学部 高原 雅子 (香川県立高松養護学校)
小林 孝洋 (香川県立香川丸亀養護学校)
中学部 妹尾 恭子 (香川県立香川中部養護学校)
○福家 美香 (坂出市立坂出小学校)
高等部 高木 真澄 (丸亀市立飯山北小学校)

<研究協力者及び外部指導者>

小学部 恵羅 修吉 (香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻 教授)
小方 朋子 (香川大学教育学部特別支援教育講座 教授)
藤田 明 (香川県教育委員会事務局特別支援教育課 副主幹兼主任指導主事)
中学部 武藏 博文 (香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻 教授)
植松 克友 (高松市立国分寺南部小学校 校長)
高等部 西田 智子 (香川大学教育学部特別支援教育講座 教授)
坂井 聡 (香川大学教育学部特別支援教育講座 教授)
猪熊 優子 (社会福祉法人いいのやま福祉会 野の花 生活介護 管理者)
宮前 義和 (香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻 教授)
山本 木ノ実 (香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻 教授)
中島 栄美子 (香川大学大学院教育学研究科高度教職実践専攻 准教授)
松島 充 (香川大学教育学部数学講座 准教授)



令和3年1月30日

編集者 香川大学教育学部附属特別支援学校
校長 青山 夕夏
発行所 香川大学教育学部附属特別支援学校

〒762-0024 香川県坂出市府中町綾坂889

TEL (0877)48-2694

FAX (0877)48-0292

メール

tokusimain@kagawa-u.ac.jp

ホームページ

<http://www.ed.kagawa-u.ac.jp/~tokusi/index.html>

